

平成30(2018)年度 福知山公立大学
市民学習・キャリア支援センター
事業報告書

市民学習・キャリア支援センター事業
平成30(2018)年度 報告書

目次	福知山公立大学市民学習・キャリア支援センター概要	2
	■分野別公開講座	
	第1回公開講座 京都工芸繊維大学と福知山公立大学の試み	
	第1部「京都工芸繊維大学の福知山キャンパスでの教育研究について」	3
	第2部「地域と学生が交流し助け合う暮らしの力を考える」	5
	第2回公開講座 会計分野の理論と地域での実践	
	第1部 地方創生のための博愛資本主義	
	第2部数字で見るまちの特徴と課題	7
	第3回公開講座 情報学の理論と地域での実践	
	第1部「話ができるコンピュータ・音声認識と会話ロボットの最前線」	9
	第2部「話ができるコンピューター未音声対話のための言語処理」	11
	第4回公開講座 多文化共生の理論と地域での実践	
	フィンランドにおける多文化共生と公共図書館	13
	第5回公開講座 国際農村振興の理論と地域での実践	
	第1部「ベトナム農村の家族と都市、外国での労働」	15
	第2部「アートを活用した中国新農村建設」	17
	■福知山公立大学公開講座	
	井口学長塾	
	沖縄と東アジアから見た日本の近現代史	19
	■地域創生セミナー	
	第1回「大河ドラマを契機とした観光誘客・シティプロモーションに向けて」	
	第1回 大河ドラマとシティプロモーション	21
	第2回地域創生セミナー	
	防災・医療 避難所のあり方を考える	23
	第3回地域創生セミナー	
	『大河ドラマを契機とした観光誘客・シティプロモーションに向けて』	25
	第4回地域創生セミナー	
	医療 データから見えてくる地域医療の現状と将来ビジョン	27
	■子ども学び支援事業	
	富野副学長の天文教室 美しい宇宙のことをもっと知ろう！	29
	児童館国際食文化交流事業	31
	■京都社会人大学校 北近畿校	
	京都社会人大学校 北近畿校	35
	■まちびとゼミ	
	「福知山の歴史文化に触れる	
	～学ぶ！習う！踊る！福知山踊りとドッコイセまつり」	37
	学ぼう！やってみよう！「認知症 × 地域社会」	39
	■社会人・キャリア支援事業	
	●京都北都信用金庫との共同研修	
	●職業人向け開発型インターシップ	41
	■まちかどキャンパス事業	
	福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎（ふくちしゃ）	43

市民学習・キャリア支援センターは、大学の有する「知」やネットワークを活かして多世代の学びの場づくりと様々な市民活動や学び直しも含めた市民のキャリア形成を支援する役割を担って事業を行っています。

今年度は、3つの目的に沿って6つの事業を行いました。

■3つの目的

- ①福知山公立大学の有する「知」やネットワークを活かした学びの場を設け、市民力の育成を通して持続可能な地域社会形成に貢献する。
- ②地域内外のステークホルダーが学び・出会い・交流する場を設けることで、問題解決や未来創造を実践するネットワーク形成の契機とする。
- ③福知山公立大学のコンセプトや新たに加わった教員の専門を市民に伝えることで、市民の本学への関心を高め理解を深める。

■6つの事業

- ①公開講座（分野別講座、井口学長塾）
- ②地域創生セミナー
- ③子ども・若者学び支援
- ④社会人キャリア支援
- ⑤まちびとゼミ
- ⑥京都社会人大学校



井口学長塾～学びのコミュニティをつくる



分野別公開講座～共に学び合う

事業には参加者として、時には講師として市民や事業者の方々にご参加いただきました。強い関心を持って事業にご参加いただきましたことで、大学と市民が共に知恵を集めて共に学び合う場を創ることができました。心よりお礼申し上げます。



市民学習・キャリア支援センター長
谷口 知弘

分野別公開講座

第1回公開講座 京都工芸繊維大学と福知山公立大学の試み

第1部「京都工芸繊維大学の福知山キャンパスでの教育研究について」

- ◆2018年7月24日(火)18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室
 ◆講演者：京都工芸繊維大学 教授・学長補佐 桑原 教彰
 ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 教授 谷口 知弘

〔概要・趣旨〕

京都工芸繊維大学（以下、本学）は平成28年度より、地域創生 Tech Program という京都北部の工学系の人材育成、イノベーション創出のための教育プログラムに取り組んでいます。平成30年度の9月末からはその第一期生が福知山市に開学した本学福知山キャンパスを拠点として、京都北部の5市2町に事業所のある企業、自治体と共にPBL、インターンシップに取り組みます。本講座では地域創生 Tech Program で育成する人材像、大学と京都北部企業との連携について述べました。

〔詳細・内容〕

本学は現在、SGU (Super Global University)、COI (Center of Innovation)、COC (Center of Community) の3つの事業を柱に様々な事業を推進しています。SGUは本学のデザインの力によって世界の人材を引き付け拠点大学になることを目指し、COIは研究力を高めて本学をイノベーションのハブとすることを目指しています。そして

COIは地域、特に京都北部の企業の研究開発の拠点となること、そしてテックリーダと呼ぶ地域のイノベーションに貢献できる人材を輩出することを目的としています。地域創生 Tech Program と呼ばれるこの教育プログラムはCOCの中核をなす事業です。まずテックリーダとは、専門分野の知識・技能を基盤としてグローバルな現場でリーダーシップを発揮し、プロジェクトを成功に導くことができる人材です。専門知識、リーダーシップの能力が高いことはもちろん、高い外国語運用能力、そして日本人としての文化的アイデンティティを備えていなければなりません。

そのような人材を育成するために、本教育プログラムでは1年次に、本学の京丹後キャンパス、福知山キャンパスを活用した「地域課題導入セミナー」という2泊3日の授業を提供しています。この授業では京都北部の5市2町の自治体から、それぞれの地域における課題を頂き、2、3名の学生からなるチームが、テクノロジーでその課題解決のためのソリューションを提案します。1日目は各自自治体からの課題説明と学生チームとのディスカッション、2日目は実際に現地を訪問してフィールドワーク、その後、ソリューションについての議論、プレゼン資料の制作を行い、3日目は自治体の皆様にに向けたソリューションのプレゼンテーションを行います。1年生という事でまだまだ専門知識は足りないけれど、この授業で地域の課題について知り、現場を見る大切さを学びます。2年次には本教育プログラム独自の授業というのは設定していません。それは学生に各専門課程においてしっかりと基礎学力、専門知識を身につけてもらうためです。そして3年次の後期からまさに地域の企業、自治体の課題の解決に取り組む、PBL授業である「地域創生課題セミナーⅠ」、そして「ものづくりインターンシップⅠ」に取り組みます。インターンシップには京都府北部の50余りの企業、自治体から受け入れの承諾を頂き、マッチングの結果20余りの企業、自治体でインターンシップを体験します。



4 年次には PBL やインターンシップを通した学びから、それをさらに京都北部をフィールドに深めたいと思う学生に、「ものづくりインターンシップⅡ」、「卒業プロジェクト」の授業を提供しています。タイに事業所を有する京都北部の企業の協力を得て、2 週間の国内インターンシップの後に、2 週間、タイの事業所で海外インターンシップを実施します。既に一般のプログラムとして実験的に試行しており、学生には好評です。また「卒業プロジェクト」は 3 年次、4 年次の PBL やインターンシップで実施したことをベースに、企業や自治体と連携して行うものです。

2019 年度には本教育プログラムで 1 年生から 4 年生がそろい、学年の横の繋がりだけでなく、縦の繋がりも完成します。このプログラムで学んだ学生が、テックリーダとしてまず世界に羽ばたき、そして京都北部に帰ってきて地域創生の要として活躍してくれることを期待しています。



ものづくりインターンシップ発表会 (2019.02.19)

分野別公開講座

第1回公開講座 京都工芸繊維大学と福知山公立大学の試み

第2部 「地域と学生が交流し助け合う暮らしの力を考える」

- ◆2018年7月24日(火)18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室
 ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 教授 谷口 知弘
 ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 教授 谷口 知弘

〔概要・趣旨〕

地域と共に歩む研究・教育を大切な柱とする福知山公立大学（以下、本学）に学ぶ学生が地域に暮らす「住まい方」のカタチに注目して、学生が参画する多世代交流型地域社会の研究開発に取り組んでいます。本講座では、新町商店街で取り組む「みんなとつながるシェアハウスさつき荘」の実践を中心にご紹介しました。加えて、京都府が進める高齢者宅同居の試み「京都ソリデール事業」と、2018年5月に開設された本学のサテライトキャンパス「まちかどキャンパス吹風舎（ふくちしゃ）」を拠点とした大学・学生と地域の交流・協働事業の構想を伝えました。そして講演の後、学生と地域住民が相互扶助・相互学習により互いに育て合う関係形成づくりの可能性について話し合いました。

〔詳細・内容〕

本学に学ぶ学生は、全国から集い約9割は地元を離れ福知山市内に暮らしています。では、その暮らし方はどうでしょう。多くの学生が大学近くのアパートに部屋を借り、部屋と大学とアルバイト先の3点を巡る暮らしをしています。地域協働型教育に取り組む大学の演習では、1年生から小集団クラスで地域社会をフィールドに学んでいます。日々の暮らしの中では地域社会との接点を見つけにくい環境に置かれています。

一方、地域社会は少子高齢化が進み、独居高齢者の増加や住民自治の担い手が不足するなどの問題が進行しています。そこで、地域との接点を持ちにくい環境にある学生が日々の暮らしの中でご近所と交流し、地域社会と関わる環境をつくることで、学生と地域住民が助け合い学び合う「学生が参画する多世代交流型自治活動」に発展するとの仮説を立てました。

この仮説を検証し社会実装を試みる新町商店街で取り組む「みんなとつながるシェアハウスさつき荘」を中心にお話しし、加えて、京都府が進める高齢者宅同居の試み「京都ソリデール事業」と、2018年5月に開設された本学のサテライトキャンパス「まちかどキャンパス吹風舎」を拠点とした大学・学生と地域の交流・協働事業の構想をお伝えしました。

この取り組みのアイデアは、新町商店街を会場に月に一度開催される福知山ワンダーマーケットに学生と共にボランティアスタッフとして参加した経験から生まれました。福知山ワンダーマーケットはアーケードが残るレトロな新町商店街で開催される食と暮らしにまつわる定期市で、2016年10月に第1回が開催されました。商店街の店主や地元企業に務める若者、有機農家、手作り雑貨店の開業を目指す方など市民有志で実行委員会を結成し取り組む民の活動です。この活動に参加した学生たちは、ボランティアとして事業実施に貢献すると同時に、実行委員会のメンバーや商店主、来訪者との交流から刺激を受け多くの気づきを得ます。このような交流が、非日常的なイベントだけでなく日常の暮らしで実現したの



ご近所とつながるシェアハウスさつき荘で交流する学生と住民

なら、学生と地域社会双方が便益を得られるのではと考えました。そこで、学生が地域に暮らすカタチの試みとして、新町商店街の住宅を借りた学生が暮らすシェアハウス「ご近所と繋がるシェアハウスさつき荘」の実験を2018年5月よりはじめました。私は管理人、学生と地域をつなぐコーディネーターは商店街の役員が担ってくださっています。定例の活動である月に一度の商店街の街路清掃への参加や、交流を促す企画としてサッカーのワールドカップをご近所で観戦する「ご近所テレビ」の開催など小さな地域活動への参画や交流が始まっています。本講座に参加したシェアハウスの住人である2年生の学生は暮らしはじめて2ヶ月の感想として、ご近所のみなさんが歓迎してくださっていることが嬉しいこと、ご近所や商店街の店主との交流を楽しんでいることなどを語ってくれました。学生が地域と共に暮らす「住まい方」のカタチの実験は順調に始まりました。まだ始まったばかりですが、開設までの経過やこの間の出来事から、住宅所有者の理解と支援及び学生と地域をつなぐコーディネーター役の存在が重要ではないかと考えています。

また、京都府が進める、学生が高齢者宅に同居する「京都ソリデール」事業にも取り組んでいます。学生と住民に行ったアンケート調査では、学生の3割、住民の2割が高齢者宅同居について好意的でした。2017年度からマッチングを進めて現在2軒実現しています。

最後に、2018年5月に新町商店街の空き店舗をリノベーションしてオープンしました本学のサテライトキャンパス「まちかどキャンパス吹風舎（ふくちしゃ）」についてご紹介します。本施設は、大学・学生と地域が交流を通して学び合い育て合う場を目指しています。「まちライブラリー」や「まちびと起業塾」、学生の「地域プロジェクト」などの独自事業の実施や公益活動の貸し会場として利用いただいています。また、近所の子供が遊びに来たり、地域の人達が集う場所にもなりつつあります。今後は、公共施設マネジメントの視点から地域の集会所や公民館活用のモデルとなるような事業の社会実験も行っていきたいと考えています。

以上紹介しました大学・学生が地域と関わる仕掛けの先に、商店街の通りを廊下に見立てて、ある家はリビング、こちらの元店舗はキッチンと、商店街界隈が大きな「家」のような多世代交流型住環境の実現を夢見ています。地域の皆さんの共感と協力がなければ絵に描いた餅に終わってしまいます。少し長い目で見て一緒に取り組めることを願っています。



分野別公開講座

第2回公開講座 会計分野の理論と地域での実践

第1部 地方創生のための博愛資本主義 第2部 数字で見るまちの特徴と課題

◆2018年8月27日(月)18時30分～20時30分 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室

◆講演者：(第1部)関西学院大学大学院経営戦略研究科 石原 俊彦教授

(第2部)福知山公立大学地域経営学部 准教授 井上 直樹

◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 准教授 井上 直樹

〔概要・趣旨〕

(第1部) 地方創生のための博愛資本主義

首都圏の過密とは対照的に、日本全国で過疎化が進んでいます。私たちには、限界集落や消滅自治体の問題に真剣に取り組み、解決策を見出すことが求められています。福知山市や北近畿地域の地方創生には、自治体、住民、企業、NPO、大学等が相互に連携して力を合わせていくことが求められます。こうした連携を可能にするキーワードが博愛資本主義です。

(第2部) 数字で見るまちの特徴と課題

一公共ガバナンスによるまちづくりに向けて一

あなたの住んでいるまちの特徴は何ですか。ほかのまちとどのように違うのでしょうか。人口、面積、名産品の出荷額、観光客数など、まちは、政府や自治体などの統計で数値化されています。今回は、難しい統計の知識を必要としない RESAS (リーサス：地域経済分析システム) を使って、数字で見る過去、現在、そして、将来のまちの姿を分析し、自治体、市民、企業などが価値を共創する、公共ガバナンスによるまちづくりを考えていきます。

〔詳細・内容〕

(第1部)

地方創生は、第一次産業に大きな発展の可能性があり、6次産業化、地域商社、DMOなどの施策が各地で展開されています。本講座では、地方創生を推進する際の基本的な考え方となる博愛資本主義の概要を理解し、住民等が自治体と協働するために、自治体や公務員の実態を理解することを目的としています。

自治体の業務とコスト計算・業績評価、公務員の給与・人事、国と自治体の関係、自治体職員と市民との連携など、必ずしも広く、正しく理解されていない自治体と公務員の現状と課題を説明しています。これらの課題は、自治体の状況をどれだけ正確に住民に伝えるか、行政経営ではなく住民との地域経営、行政改革ではなく地域経営改革という発想で解決が可能であるとしています。そのためには、役所に閉じこもらず、住民を招き・意見を聞き・本音を伝えることで信頼関係を形成する、事務屋に留まらず地域に飛び出すといった解決策が有効です。

それを踏まえ、長崎県佐々町を事例として、地域経営の一端を担うという発想にもとづき、公務員にも求められる博愛資本主義の重要性を解説しました。



福知山公立大学 学務部・地域経営学部 企画・運営 市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室

(第2部)

会計学や統計学の難しい理論や知識を必要としない、地域創生に役立つお話をすることが本講座の目的です。

自治体と住民等は委任関係にあり、住民等から権限を委任された市が行政サービスを提供しています。近年、その関係には変化が生じ、少子高齢化、財政状況の悪化等の影響により、市のみが行政サービスの提供主体になるのではなく、住民等との協働による行政サービスの提供が始まっています。

住民等との協働を円滑に推進するため、市は、協働者である住民等に対し、実施した行政サービスやそれに関連する収入・支出を報告することによって、今まで以上に説明責任を果たしていく必要があります。その際、決算書に記載されている財務情報に加え、非財務情報を活用することによって、決算の内容をわかりやすく住民等に報告できます。

RESAS は、地域経済分析システム (Regional Economy Society Analyzing System) のことであり、地域経済に関するさまざまな官民のビッグデータ（産業、人口、観光、農業等）をわかりやすく「見える化（可視化）」したシステムです。RESAS を活用することにより、非財務情報のうち、各府省、企業等が保有する定量的な統計情報を一括管理・可視化し、時系列分析や他団体比較をすることができます。

本講座のなかでは、RESAS の画面を示しながら、クイズを交えて、その使い方を説明しました。また、今年度後学期に実施予定である地域経営演習Ⅳ（2年生ゼミ）の内容を紹介し、RESAS をはじめ、学生が非財務情報を使った定量的・定性的な分析手法をどのように修得していくのかを解説しました。



分野別公開講座

第3回公開講座 情報学の理論と地域での実践

第1部 「話がわかるコンピュータ - 音声認識と会話ロボットの最前線 -」

- ◆2018年11月29日(木)18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室
 ◆講演者：京都大学大学院情報学研究科 教授 河原 達也氏
 ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 助教 張 明軍

〔概要・趣旨〕

音声で会話ができるコンピュータやロボットは以前は、SFの世界でしたが、スマートフォンアシスタントやスマートスピーカなどで身近なものになりました。また、国会（衆議院）では2011年から会議録の作成に自動音声認識が使われています。このような技術の展開を概観しながら、今後さらに人間レベルに近い会話能力を持つロボットの研究開発について紹介します。

〔詳細・内容〕

はじめに、これまでの音声認識技術の進展の経緯についての紹介がありました。京都大学では1960年代から「音声タイプライタ」の研究が先駆的になされており、当時の写真等の貴重な資料を使って説明されました。次いで、1980年代以降の隠れマルコフモデル(HMM)を用いた音声認識技術について紹介されました。この頃から統計的な学習モデルを用いて、大語彙の連続音声認識が試みられるようになりました。大学や学会が中心とな

って学習データの収集を本格的に始めたのもこの頃です。しかしながら、そのようなアプローチで収集できるデータ量には限界があり、実用的な認識率には至りませんでした。2000年代に入り、深層学習とビッグデータの利用によって認識率が向上してようやく実用的なレベルに達し、現在ではPCやスマートフォン、スマートスピーカ等を使って、誰でも音声認識を使うことのできる環境が整っています。このために、これらのサービスの提供者は、利用者からのデータ収集を行うことによって学習データを日々蓄積し、認識率の向上を図っています。学習に用いるデータ量の増加に伴って認識率も向上していることが示されました。一方で、現在の深層学習を使った音声認識は、音響モデル、言語モデルを用いる従来のパラダイムの延長線上にありますが、新たなエンドツーエンドの認識の実現に向けて、現在盛んに研究がされています。

また、大学ではなかなか大規模なデータが収集できない一方で、大学での講義などに特化した音声認識の研究をされていることが紹介されました。大学の講義では話者が特定されており、その人の声が認識できればよいのです。そのためには、その人の過去の講義音声を使って学習を行います。一方で、一般には使用されないような専門用語が多用されます。これに対しては講義資料等を利用して学習をすることにより、当該講義に特化したモデルを作成して、講義への字幕付与等を実現しています。

次に、国会議事録の作成において、従来は現場で速記者が速記により記録して後から書き起こしていましたが、現在は衆議院で自動音声認識を用いたものになっていることが紹介されました。過去の議事録と収録音声データを用いて学習を行うことで、良好な認識率を達成できていることが示されました。

最後に、会話ロボットに関する研究として、アンドロイドに自然な会話をさせる研究についての紹



介がありました。本研究はアンドロイド研究の第一人者である大阪大学の石黒教授と共同で行われており、実際のアンドロイドが人間の話を聞いて自然な相づちを打ったり、返答を返す研究が行われています。

全体を通じて、実例に基づき分かり易い講演でした。



第3回公開講座 情報学の理論と地域での実践

第2部「話がわかるコンピュータ – 音声対話のための言語処理 –」

- ◆11月29日(木)18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室
 ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 教授 山田 篤
 ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 助教 張 明軍

〔概要・趣旨〕

我々の日常生活において、これまでは人間が話す相手は人間でしたが、電話を用いた自動音声応答 (IVR) やスマートスピーカ、愛玩ロボットなどにより、人間がコンピュータ相手に話すことが当たり前になってきています。このようなシステムがどのような仕組みで人間の話した言葉を理解し応答しているのかを概観し、今後の地域での取り組みの可能性を探っていきます。

〔詳細・内容〕

はじめに電話のプッシュボタンの操作による自動音声応答システム (IVR) についての話がありました。IVR はシステムから音声による指示がありますが、利用者が話すことはなく専らプッシュボタンの操作によって処理が進む対話的システムです。IVR で流すシステムからの指示も実際の人の声の録音から合成音声に変わってきています。一方、利用者からの回答に一部音声認識を用いる試みもありますが、主流は DTMF であり、定型的でシステム主導で進むような処理に適しています。

一方で、利用者也音声で応答するような音声対話システムを実現するためには、相手の言ったことを聞く能力、相手の言った内容を理解し、自分の言うことを考える能力、自分の言いたいことを話す能力が必要になります。これをコンピュータによって実現しようとする、人間の聴覚器官に相当するのがマイク、人間の発声器官に相当するのがスピーカで、後は脳に相当する人工知能の中で、音声認識、自然言語理解、音声合成を行うことになります。たとえば、スマートスピーカの中にはマイクとスピーカはありますが、脳が行う処理はすべてクラウド上で行うことにより、スマートスピーカの小型化が実現されています。このとき、スマートスピーカの拾ったすべての音をクラウドに送ることのないよう、ウェイクワードとい

う起動のための決まり文句が用意されています。また、ハードウェアスイッチも付加されています。スマートスピーカによる誤発注の問題に対しては、経済産業省が「電子商取引及び情報取引等に関する準則」を定めています。

対話システムを構築するためには、目的とする対話のシナリオを作成する必要があります。単純な質問応答の場合には、一問一答で前のやり取りの内容を覚えていないこともあります。一方で、たとえば「明日の天気」と言われた場合には、明日とはいつか、どこの天気かといった言外の情報を適切に埋めて回答内容を作成する必要があります。単純な質問応答の場合にはキーワードマッチングという技術を用いて、特定のキーワードに反応して回答することがあります。この場合、日本語の文末表現等は一切考慮しません。一方、回答を作成するために利用者から複数の情報を取得する必要がある場合にはスロットフィリングという技術が用いられます。この場合の対話シナリオとしては、各スロットを順に利用者に質問していくという方法と、利用者に自由に発話させてそこからスロットの値を取り出し、足りない情報を聞いていくという方法があります。言外の情報を適切に埋めるためには暗黙の前提としての省略値解釈（デフォルト値）が用いられます。省略値は利用者の発話内容により上書き可能です。

音声対話システムは、音声認識の結果に依拠するため、認識誤り（聞き間違い）の問題が常に起こりうることになります。この対処法としては、はい、いいえで答えられる短い副対話で利用者に確認を行う明示的確認と、確認したい内容をシステムの次発話に埋め込んで、必要に応じて利用者に訂正発話を促す暗黙的確認という方法があります。



分野別公開講座

第4回公開講座 多文化共生の理論と地域での実践

フィンランドにおける多文化共生と公共図書館

◆12月10日(月)18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F-2

◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 准教授 大谷 杏

◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 助教 張 明軍

〔概要〕

北欧フィンランドでは「地域住民のリビングルーム」として公共図書館が積極的に活用されています。読書室の他に、楽器演奏スペース、最新技術を体験できるパヤという空間もあり、それら恵まれた設備のもとで毎日様々な催しが開かれています。本講座では、フィンランド人も外国人も楽しめるランゲージ・カフェというイベントについて紹介し、外国人と日本人の交流の場に公共施設をどのように生かしていくべきかを論じました。

〔趣旨〕

北欧フィンランドでは、公共図書館が「地域住民のリビングルーム」としての役割を果たしています。リビングルームと成り得た背景には、設備の充実があります。例えば、読書や音楽鑑賞、学習に重きを置いた日本の図書館とは違い、楽器演奏スペース、最新技術を体験できるパヤという空間が備えられていることが大きな特徴です。また、恵まれた設備を用いて開かれる様々な催しも市民の図書館利用を促しています。

本講座では、フィンランド人のみならず同じ地域住民として生活する外国人も楽しめる「ランゲージ・カフェ」という催しについて紹介し、フィンランドの公共図書館の多文化への取り組みをまとめました。日本では、高齢化が進み、現役引退後の居場所が求められる一方で、地域住民同士の繋がりが希薄になってきています。既存の公共施設のあり方を見直し、外国人も含めた地域住民同士がふれあい、居場所となるような新たな場の創出が必要とされるため、フィンランドの例を参考に今後の日本の施設活用についても検討しました。

〔詳細・内容〕

(1) フィンランドの概要と現地の公共図書館

北欧の一部であるフィンランドは人口約 550 万人、スウェーデンとロシアと国境を接しているだけでなく、長い間、両国の統治下にありました。1928 年に図書館法が制定されたことから、国民の読書への関心は高く、世界で最も図書館利用率の高い国のひとつとして知られています。図書館には同時に、国民の間に存在する不平等の是正、安心な居場所の提供、多文化社会への対応も求められてきました（教育省「フィンランド図書館政策 2015」）。現在、首都ヘルシンキ周辺 4 自治体には 63 の公共図書館があり、HelMet というネットワークを形成しています。

(2) 多言語・多文化社会フィンランド

フィンランドはもともと移民の送り出し国でしたが、1990 年代の難民受け入れをきっかけに受け入れ国へと変化していきました。20 年間で外国人住民数は約 10 倍となり、特に首都圏では、外



国語話者の割合が総人口の 12.9% を占めるに至っています。隣国のロシア語、エストニア語だけでなく、アラビア語やアフリカのソマリ語も話者数の多い言語です。

(3) フィンランド公共図書館の多文化への取り組み

フィンランドの公共図書館では、移動図書館、貸し出し本の宅配サービスの他、Paja という最新技術を無料で使うことのできるコーナー、ディスコ、個別の防音楽器演奏スペースなどが備えられています。また、可動式書棚は、図書館内に新たな空間を創出することにも役立っています。

とりわけ多文化に関しては、次の取り組みが行われています。ランゲージ・カフェでは、ある程度フィンランド語会話が可能な外国人たちが、お茶とお菓子を片手に図書館職員やボランティアと約 1 時間、フィンランド語の日常会話を楽しめます。

- ① イベントの開催：移民がフィンランド人と共にフィンランド語会話を楽しむフィンランド語ランゲージ・カフェ、ロシアからの高齢移民を対象としたロシア語によるコンピューター教室の他、フィンランド人と外国人いずれも参加可能な英語ランゲージ・カフェの開催など
- ② 情報の多言語化：掲示・配布物、職員のユニフォームの多言語表記
- ③ 職員の採用：住民数の割合に応じた外国人職員の採用
- ④ 外国語図書資料の配架：多言語ライブラリー（パシラ図書館）
- ⑤ 民間への場所、資源の提供：目的を同じくする民間団体への部屋や機械の無料貸与
- ⑥ フィンランド語教材の長期貸し出し：最長半年貸し出し可能
- ⑦ 生活情報・言語教育に関する情報提供コーナーの設置

(4) むすびに

フィンランドと日本では国家人口数が著しく異なり、母語話者数が相対的に少ないなど言語を取り巻く状況にも違いが見られ、直接比較対象として検討するのには難があるかもしれません。また、日本で同じような取り組みを行った場合、著作権や施設利用のモラル等の問題に対処していく必要もあります。とは言え、フィンランドでは、図書館政策に基づいて平等や多文化への配慮が行われた結果、外国人をも含めたすべての住民が利用しやすい公共図書館となり、これまで関わることのなかった地域住民同士が地域の「リビングルーム」で知り合うことが可能となりました。「出会いの場としての図書館」は、今後の日本の公共施設の活用を検討していく上で参考になるのではないのでしょうか。



分野別公開講座

第5回公開講座 国際農村振興の理論と地域での実践

第1部「ベトナム農村の家族と都市、外国での労働」

- ◆2019年2月8日(金)18:30～20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F-3
 ◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 教授 渋谷 節子
 ◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 助教 張 明軍

〔概要〕

ベトナム南部メコンデルタ地域の農村では都市化が進み、多くの人々が農業を離れて都市の仕事に就いています。さらに、都市から外国へと人が移動しているのが、現在のベトナムです。本講座では、そういった人の流れが農村の生活にどのような影響を与えているのか、特に農村の生活の中心をなす家族に焦点を当てて、1990年代後半からの変化を追いつながり論じました。

〔趣旨〕

ベトナム南部の人々にとって、家族は生活の基盤をなす社会経済的単位です。それは、祖先から子孫へと続く血縁的なつながりであり、頻繁に行われる祖先崇拝の儀礼などにも見られるように精神性の強いつながりであるとも言えます。農業を基盤とした農村の社会経済生活は、家族を基本として成り立っていました。農作業を始め、商品の売買などはすべて家族単位で行われてきました。村の共同体意識が低く、村人同士がこうした場面で協力することは稀でした。

しかし、近年、農村の生活は大きく変わっています。その背景にある大きな要素の一つは都市化です。1980年代後半のドイモイ政策（自由市場経済化政策）以降、ベトナムは大きな発展を遂げていますが、その中で、農村に比べて都市の発展の速度が速いという状況が生まれています。都市には工場なども急速に建設され、また、開発による道路の建設により都市への移動距離が短くなったこともあり、街で働く農村の人々が急増しています。

そして、さらに、人々は近年、より高い収入を得られる仕事を求めて国外に出るようになっていきます。日本でもベトナム人労働者（現在、日本に滞在している技能実習生で一番多いのがベトナム人であり、40%を占める）が急増しています。ベトナム人にとって、日本は以前から「お金が稼げる」憧れの国として話題に上がっていました。こうした背景から、日本におけるベトナム人の急増が理解できます。

しかし、都市や外国での仕事によって農村の家族の絆が弱くなったかという点、そうとも言えません。多くの人々は農村の家族のために働き、収入の一部を送金するなど、親の世話をするという価値観は現在も変わっていません。





分野別公開講座

第 5 回公開講座 国際農村振興の理論と地域での実践

第 2 部 「アートを活用した中国新農村建設」

◆2019 年 2 月 8 日(金)18:30 ~ 20:30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F-3

◆講演者：福知山公立大学地域経営学部 助教 張 明軍

◆司会者：福知山公立大学地域経営学部 助教 張 明軍

〔概要〕

中国政府は「三農問題」の解決に向けて、2005 年から農民の生活水準の向上と農村環境の改善を目的とする「社会主義新農村建設」との国策を公表し、それに従って、全国各地で大規模な農村集落の再整備が相次いでいます。新農村建設に再整備の手法として、アートを活用して取り入れることがしばしばあります。本講座においては、中国四川省成都市農村の事例を紹介し、日本の事例と比較して得られた知見について論じました。

〔趣旨〕

まず、新農村建設の定義から、対農村地域投資の背景について説明しました。新農村建設とは、社会主義制度の下で、新時代の要求に従い、農村地域に対して、経済、政治、文化等の方面への建設を通じて、最終的に農村地域の経済繁栄、インフラ、環境の整備、調和のとれた社会主義新農村の実現を達成することです。この定義が物質文明建設（インフラ及び環境の整備等）と精神文化建設（農村文化の保全、教育普及等）とで構成されていると説明しました。中国政府は 1998 年から 2006 年まで農村地域に累計 2 兆人民元を投資しました。なぜ、こんなに農村地域に力を入れるのか？中華人民共和国の成立直前の 1948 年から今日まで、戦後の復興、政治運動、外国資本の誘致等によって、合計 10 回の経済危機があったと言われています。有効な農村政策によって、経済危機の影響を解消できました。今の新農村建設の国策も生産過剰による経済危機を乗り越えるための一つの手口だと考えられます。しかし、「改革開放」政策等の外国資本の導入により、中国は「沿海地域と内陸の差」、「都市と農村の差」、「貧富の差」、この三つが原因となる社会問題に直面するようになりました。三つの格差を是正するため、新農村建設は「三農問題」の解決に取り組んでいます。「三農問題」とは農民の低収入、社会保障

の問題；農村経済の停滞；農業生産効率の低下を示しています。「三農問題」の解決に農業税免除、家電購入手当、インフラ・環境整備等の恵農政策が実施されました。農村ビジネス及び景観整備等の一つの有効手段として、各地の農村づくりにアート要素を取り入れるようになりました。

1950 年から、アメリカ、フランス、イタリア等の国で自然資源、景観を直接の製作素材として、美術館から飛び出すアートと言われるオフ・ミュージアムブームが流行するようになりました。日本でも 1960 年代から、地域の文化を表出し、アートを媒介として地域活性化や交流人口の増加などを目的とするアートプロジェクトが全国に広がるようになりました。有名事例として、岡山県旧牛窓町の牛窓国際芸術祭、石川県鶴見町の鶴見現代美術祭、新潟県十日町市の越後妻有アートトリエンナーレ、瀬戸内海直島町の直島アートプロジェクト、徳島県神山町の神山アーティスト・イン・レジデンスなどが挙げられます。実施の効果として、自然や産業等の地域既存資源の活用、観光振興、地域魅力上昇、居住人口増加、地域になかった新たな考え方や発想の醸成等が挙げられますが、場所の消耗、地域住民にとっての場所の機能や文脈と作品との間にずれがあり、従来場所の機能を失い、住民の理解が必要であると指摘されています。アートを活用した地域づくりの効果を狙い、アートを農産品のブランディング、景観づくりに活用する中国の農村地域もあります。本講座で、中国四川省成都市にある浦江道明竹芸村と幸福公社を紹介しました。竹芸村は 2000 年の歴史を持ち、現在、中国の非物質文化遺産に登録されています。伝統的な竹工芸を伝承し、美術大学の工芸研究講師を招き、村民に対して、新たな竹工芸の手法、工程を教え、竹工芸の製品の工芸性を高めました。現代要素、アート要素を取り入れ、主に立体竹工芸、平面竹工芸、入れ物ケース竹工芸が地元職人によって作られてい

ます。文化遺産の有効利用を狙い、道明竹工芸というブランドを作り出し、道明竹文化を広げるように、文化創新、レジャー、体験の一体化農村観光コミュニティが建設されています。現在、平均日毎に 500 人以上の利用客を受け入れています。幸福公社は 2008 年四川大震災の後、産官連携による復興政策が実施され、民間企業がこの村の復興事業に取り入れられるようになりました。震災によって、消滅した旧農村の文化の復元を目指して、がれきから旧農村の生活に使う道具などを保存し、新農村の建設に活用しています。旧農村文化を復元すると共に新しい文化、芸術アート要素を取り入れ、新農村の文化的価値を上昇させました。文化的価値の上昇の影響で、交流人口が

増加し、新農村周辺地域の地価の上昇を実現させました。新農村建設を通じて、農村住民の利益（経済的、文化的）と企業利益の相乗効果を実現できました。この二つの村のように、経済面の効果を重視することより、先に、村にある文化的資源を発掘して、文化的資源の保存、継承、融合、創新を軸とする新農村建設が有効的だと考えられます。また、文化面の取組みの意義として、芸術、アートを農村文化に取り入れることは、芸術家の作品自体の価値、農村住民の美に対する価値観を高めることではなく、農村の伝統文化の保存・伝承、新文化との融合を通じて、農村住民の「新農村建設」に対する主体感と参与意欲を呼び起こすことに意義があると考えられます。



分野別公開講座 井口学長塾

沖縄と東アジアから見た日本の近現代史

『戦争と沖縄』（岩波ジュニア新書）・『未来をひらく歴史』第2版（高文研刊）をテキストに

◆2018年6月23日～12月22日。原則・隔週土曜日午前10～12時。

◆会場・場所：福知山公立大学 まちかどキャンパス「吹風舎/ふくちしゃ」

◆読書会主宰者：福知山公立大学 学長 井口 和起

〔趣旨〕

2016・17年度の2年間にわたって岩波新書『シリーズ 日本近現代史』全10巻を参加者全員で読み、考え、意見を交換してきました。これを本事業の第Ⅰ期とすれば、今年度からは第Ⅱ期として、沖縄と東アジアから見た日本の近現代史と一緒に学びあっていきたいと思えます。

沖縄も東アジアの近隣諸国も私たちの「いま」の問題そのものです。

これまでの参加者のみなさんはもちろん、新たな参加者も大歓迎です。

こう呼びかけて、テキストには池宮城秀意著『戦争と沖縄』（岩波ジュニア新書 19）と日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史—東アジア3国の近現代史—』第2版（高文研刊）を使用して、参加者全員で読み、考え、疑問や意見を出しあって、日本近現代史を沖縄や中国・韓国（朝鮮）の歴史の視点から見直すことを試みました。



〔概要〕

本年度の参加登録者は37人でしたが、時には登録者以外に京都市内からの参加者もあり、毎回の参加人数は以下のとおりでした。

6月23日：30名、7月7日：中止、7月28日：28名、8月11日：23名、8月25日：18名、9月8日：23名、9月22日：21名、10月6日：中止、10月20日：23名、11月3日：22名、11月24日：20名、12月8日：30名、12月22日：20名

予定していた開催日は以上でしたが、警報発令や主宰者の公務出張で2回開催できませんでしたので、2019年1月以降に5回を追加開催することを参加者全員で申し合わせ、予定したテキストを読了しようということになりました。

毎回の運営や参加者への連絡などは、参加者の有志が責任者となって世話をする体制を組んでくださり、連絡網も作られたので、やむを得ず開催中止になるなどの連絡もスムーズに行われ、会場の設営や後片付けも適切に行われましたが、駐車・駐輪などで少し改善しなければならないことも確認しました。

内容では、前半が沖縄の歴史を、後半が中国・韓国（朝鮮）の近現代史と日本の関係を学びあうことが中心になりました。

参加者のみなさんで2019年1月12日に昨年同様に昼食を共にする新年会を開催し、20人が集まり、感想や今後取り上げたい課題などについて和やかな中にもまじめな意見交換をしました。

以下に寄せられた感想や意見を紹介して詳細の報告とします。

【感想と希望】

- ◆ 『戦争と沖縄』はジュニア新書でもあり、何とかついていけましたが、中国・韓国となると、「知らなかったこと」「忘れてしまっていること」がたくさんあって、本を読むのも大変でした。…
- ◆ 近現代の日本とアジアの関係がとてもよく分かりました。高校時代にこのようなテキストで、このような近現代史の授業を受けていたら、あるいは進路も違っていただかもしれないと思いました。引き続き、日本と東アジアの近現代史の講座をしていただければ嬉しいです。
- ◆ 井口先生のお話はたいへん得るところが多く、私の研究にも参考になります。
- ◆ 将来もぜひ塾を継続してほしいと思います。塾での学習の雰囲気生き生きしていいです。…
- ◆ 次回テーマの希望。地元福知山での庶民の側に立って活動した先人から学びたいと思います。
- ◆ 井口先生のお話はいつも示唆に満ちた内容で、…この会で学んだことも例によってHPの方で反映させていただきました。来年も参加させていただきます。
- ◆ 今のところついて行くのに精一杯です。その時代の庶民の考え方が知りたいです。
- ◆ 学長塾はいつ行っても知的な刺激があり、楽しく参加させていただいています。…
- ◆ 両丹日日新聞の記事を見て全く安易な気持ちで申し込みをしてしまいました。受講して、皆様の学識・見識の広さ・深さに唯々感服しています。…次期も受講できればと思っています。また、講義の内容ですが、少し時代が遡りますが、大河ドラマの放映もありますことから、明智光秀と福知山の関りなどもご教示いただければと思います。
- ◆ 『戦争と沖縄』は、…幾多の断片のつなぎ合わせだった沖縄の知識を“認識”の高みへの入り口に立たせていただいた。今後も学んでゆきたい。
- ◆ 2018年からひょっこりはんの如く参加させていただいております。歴史に関る中で、多くの人に交われることが幸いです。
- ◆ 井口先生と参加の皆様と学習する時間、とても充実した時を過ごさせていただいております。また、学生時代の落し物を取り戻した気持ちになっています。…藤原彰氏、吉田裕氏などの著作、BS「インパール作戦」を見たりして、父のことを思うようになっていきます。父は12月8日にルソン島に上陸していたと言っていました。捕虜となった後、日本に戻ることができましたが、…“種さえなく”で当然だったのだと知りました。「団塊の世代」で人数の多いことが注目されがちですが、“種さえなかった世代”をとらえると、…今とは異なる世界が見えてきます。
- ◆ 講座に出席させていただくことにより、近代史に関心を深めることになりました。私はただ聞かせていただくだけなのですが、歴史の流れを大筋を捉えることができることを喜んでいきます。…
- ◆ 明治150年。特に福知山のこの歴史がどうであったかを学ぶ機会になればたいへんうれしいことです。
- ◆ 福知山市史、大江町史、三和町史、夜久野町史の近代以降の読み取り。中学校の副読本「福知山の近現代」みたいなもので、市民も読みやすいものを作るもとなる学習をしたい。



【主宰者の反省】

みんな何となく難しそうな顔で下向いて本を読むのに懸命の様子ですが、ホントはお喋りが大好きなんですよ。

今回はテキスト選びに失敗したのかも知れません。同じ編集者たちによる、もう少し通史的な『新しい東アジアの近現代史—国際関係の変動で読む：未来をひらく歴史』（日本評論社刊）を読んでいただければ参考になるはずでした。

地域創生セミナー

第1回「大河ドラマを契機とした観光誘客・シティプロモーションに向けて」

テーマ：観光

第1回 大河ドラマとシティプロモーション

◆2018年9月8日 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室

◆講演者：中村 忠司氏(大阪観光大学観光学部教授)

◆司会者 福知山公立大学地域経営学部 助教 佐藤 充

〔概要・趣旨〕

2018年4月に、NHK（日本放送協会）が、明智光秀が主人公となる『麒麟がくる』を2020年度の大河ドラマに決定しました。光秀ゆかりの地である福知山市は、これまでに「NHK大河ドラマ誘致推進協議会」に参加し、さまざまな活動を展開しています。

本セミナーでは、年2回のペースで「大河ドラマを契機とした観光誘客とシティプロモーション」と題して、当該分野の有識者や先行事例の実務家をお呼びし、関係者と市民の方との間での意見交換を行いました。

〔詳細・内容〕

第1回目は、中村忠司氏（大阪観光大学観光学部教授）を講師に迎え、「大河ドラマとシティプロモーション」をテーマにした講演と参加者との自由討論が行われました。

中村先生の講演では、国内各地の事例を通して、大河ドラマが観光地に与えるインパクトが明らかにされ、大河ドラマを契機としたシティプロモーションの重要性が指摘されました。大河ドラマは、日本におけるコンテンツツーリズムの目玉となるものであり、観光地に大きな経済波及効果を生み出すものでした。また、持続性のある観光地域づくりにするためには、市民が主体となった地域ぐるみのシティプロモーションが必要になっていました。

講演後は、中村先生と参加者との間で活発な質疑応答が交わされました。参加者からは、「福知山市において、大河ドラマを契機としたシティプロモーションを進めるときのポイントとは」、「大河ドラマ館を設置するべきか否か、もし設置するならば、どのような場所が望ましいのか」といったさまざまな質問が投げかけられ、大河ドラマを契機とした観光地域づくりへの高い関心が伝わってきました。





地域創生セミナー

第2回地域創生セミナー

テーマ：防災・医療

避難所のあり方を考える

- ◆2018年11月1日 ◆会場・場所：交流プラザふくちやま 3-2会議室
 ◆講演者：兵庫医療大学教授 神崎 初美氏、福知山社協会長 松田 規氏
 ◆司会者：芦田 信之 福知山公立大学地域経営学部 教授

〔概要・趣旨〕

災害大国ニッポン - 大雨、暴風、地震、相次ぐ災害が起こり、防災意識が高まっている中、防災知識として身を守る術の具体化など防災情報も普及し始めています。福知山市では2018年5月12日に大規模な由良川水系総合水防演習もおこなわれました。

避難所の状況は被災地からの報道により、よく目にする機会がありますが、災害の種類によって避難所のあり方も異なります。

福知山市においては大雨洪水などによる短期間の避難所運営の機会は多くありますが、地震による中長期的な避難所運営については、経験値が乏しい状態です。大規模地震は日本のどこで起こっても不思議でないといわれています。短期間だけでなく、大規模災害による長期の避難所運営についても想定し、市民の防災意識をさらに高める時期に来ていると思われます。

今回のセミナーでは「避難所のあり方を考える」と題して、災害ボランティアセンター長でもある松田規社会福祉協議会会長と長年災害看護を専門として活動されている兵庫医療大学看護学部教授の神崎初美先生から福知山の災害と避難所の問題提起をしてもらい、避難所運営の実際の活動に基づいた講演を企画しました。

講演者による講演概要：

災害発生に伴い、多くは小中学校の体育館や教室が避難所となり、住民の暮らしが始まります。しかし、体育館や教室は居住する空間としては適切ではなく、日を追うごとに劣悪な環境になっていきます。持病のある人や要援護者の方々は健康を害しやすいです。しかし、皆さんの力で避難所での暮らしを改善することや人々の健康を維持することはできます。皆さん自身が避難所を運営するのです。

講演では、災害時の健康維持方法と避難所での暮らし方、トラブルに関する対処、災害時の心理状態、要援護者への支援の方法等について私の災害支援経験を交えてお話しします。

〔詳細・内容〕

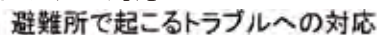
講師（神崎初美先生）の話から

これまで災害看護師として関わった被災地での避難所写真を見せながら、いくつかの問題点、例えば、体育館での避難所の場合、衣



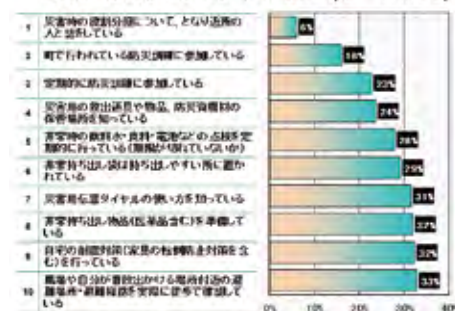
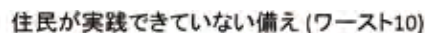
以下、講演において示された参考となる資料を挙げておきます。

2. トラブル対応



- Case 1 トイレの状況
- Case 2 避難所内での靴の扱い
- Case 3 避難所の場所取り
- Case 4 食料がない
- Case 5 情報が届かない
- Case 6 水の不足
- Case 7 かせ、インフルエンザの流行
- Case 8 食中毒が発生した
- Case 9 子どもへの対応
- Case 10 泣くことができる場所がない
- Case 11 杖がないため歩行が困難な人
- Case 12 一般避難所で生活している災害時要援護者
- Case 13 洗濯がしたい
- Case 14 入浴の優先順位
- Case 15 避難所住民に取材したがるマスコミ
- Case 16 野菜摂取不足によるビタミンの欠乏

4 日頃からの備え



減災教育と備え訓練は必要である

- 訓練には、ある程度のリアリティも必要

学生や地域住民にするには飽きさせない工夫も必要



創生セミナーは、市民公開講座が一般市民を対象にしているのに対して、毎回のテーマを専門とする人たちに集まってもらい、より専門性の高い議論の場とすることを開催目的としています。

今回は、避難所運営の課題をテーマでおこないました。災害
看護の専門家から、避難所で起こる感染症や食中毒など医療か

らの視点、避難所でのプライバシー確保、避難所に遅れて来た災害弱者が不便な場所になるなど現場で起こる問題点の例示があり、有意義でした。アンケートでは職業欄がないため、どれくらい専門とする参加者がいたのか不確定ですが、保健所や市行政、社協などを重点的に、広報をおこないました。また、参加者の満足度は高く、「参加してよかった」「続きのシリーズ化を望む」などの意見が多くみられました。

第3回地域創生セミナー

テーマ：観光

『大河ドラマを契機とした観光誘客・シティプロモーションに向けて』

第2回大河ドラマと観光地域づくり

～ NHK 連続テレビ小説「カーネーション」の舞台となった岸和田の成果と失敗～

◆2019年1月25日（金）18：30～20：30 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室

◆講演者：渡邊 隆氏（有限会社ピューパ 取締役社長）

◆司会者：福知山公立大学地域経営学部教授 谷口 知弘

〔概要・趣旨〕

昨年(2019)の4月、NHK は明智光秀が主人公となる『麒麟がくる』を 2020 年度の大河ドラマに決定し、福知山では官民を挙げたさまざまな活動が始まっています。

セミナーでは、「大河ドラマを契機とした観光誘客とシティプロモーション」と題して、当該分野の有識者や先行事例の実務家をお呼びし、関係者と市民の方との間での意見交換を行いました。

第1回目は、中村忠司氏（大阪観光大学観光学部教授）を講師に迎え、「大河ドラマとシティプロモーション」をテーマにした講演と参加者との自由討論をしました。

第 2 回は、観光地域づくりのプロ渡邊隆氏をお迎えして、「大河ドラマと観光地域づくり」をテーマに学び討論します。渡邊隆氏は、岸和田市の観光地域づくりに関わり、NHK 連続テレビ小説「カーネーション」の舞台となった際には、ロケの誘致から放映時、そして放映終了後と NHK の全国放送の効果を地域づくりに活かす実践をされてきました。これらの活動を柱として岸和田市の取り組みは、「第 5 回 観光庁長官表彰」（2013 年度）を受賞す

[illegible]

講演概要：

舞台地になったとき集中的に観光客は訪れます。しかしそれは一過性的なものであり、皆さまの予測通りの結果になる（ドラマ終われば人、来ません）、ではどう備えるのか？朝ドラと大河の違いはありますが、各地の舞台地を見て、検証したこと、福知山のミライを模索したいと思います。

〔詳細・内容〕

朝ドラ「カーネーション」の舞台地となった大阪府岸和田市。だんじり祭で全国的な知名度があり、関西国際空港に近い岸和田城や歴史的資源が自慢の 20 万人都市ですが、観光においてはお世辞にも先進的といえる状態ではありません。2011 年、そこが突然、降ってわいたように“朝ドラ舞台地”として注目を浴びました。

放送開始の春（東日本大震災が起こったにもかかわらず放送より約2年間はそれまでの実績に対して1.5～2倍近い観光動態が見られ、経済効果をはじめ、わがまちに住まう住民の誇りの醸成にもつながりました。住民団体、教育機関など幅広く「カーネーション」を支援し、盛り上げる協議会の設立、パブリックビューイングやタレントの召致、市民エキストラの参加、まち歩きコース・マップの作成、ネット発信の拡充など、それまでのドラマ舞台地にはなかった積極的な展開は、後の朝ドラにおける

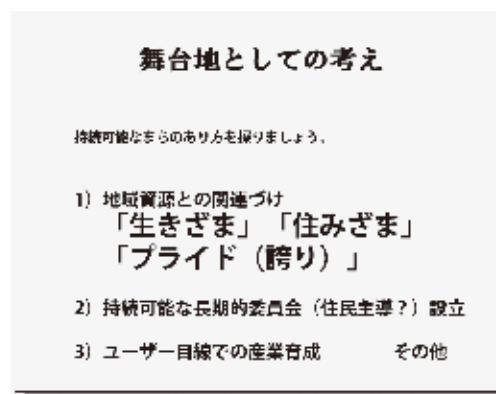
NHK と舞台地との関係に影響を与えたと思います。

これらの功績をもって 2013 年、「第 5 回観光庁長官表彰」なども頂く成功事例となりましたが、2019 年現在、岸和田の中心市街地は元の状態にもどり、観光客は激減。インバウンド観光のボトムアップもあり、外国人も散見できますが、空港に近いという利点は活かされないままです。これらの経緯から“舞台地として”の課題が類推できます。

- 1) 放送終了後の住民のモチベーション低下
- 2) 地域資源（だんじりなど）との関連づけの弱さ
- 3) 協議会の解体、移動などによるノウハウ維持の困難さ
- 4) ユーザー目線の欠如 その他

朝ドラに限って実踏調査してみると、これらの課題を事前に見ぬいて対応することで“舞台地”に選ばれた利点を“キッカケ”として、現在も継続的にまちづくりを進めているまちもあります。鳥取県の境港市は舞台地ではないにもかかわらず、鬼太郎ブランディングで大成功。「純と愛」の大阪市大正区では割り切ってドラマとは関係性の薄い水辺の町、リノベーションの町を推進。岩手県久慈市では岸和田事例を丁寧にグレードアップし、新たな観光地として生まれ変わりました。舞台地云々ではなく住民の「生きざま」「住みざま」「プライド（誇り）」がそれぞれ優先されています。

ドラマ放映を起点とした観光振興のシナリオも重要ですが、時代の消費スピードは飛躍的に早くなっています。舞台地というキッカケを上手く活用した“持続的なまちづくり”の展開が不可欠であることは言うまでもありません。その場合、地域資源との関連づけ…「生きざま」「住みざま」「プライド（誇り）」が、極めて持続的な資源になると改めて感じています。（有限会社ピューパ 渡邊 隆 2019.1.24）



地域創生セミナー

第4回地域創生セミナー

テーマ：医療

データから見えてくる地域医療の現状と将来ビジョン

◆2019年2月20日 ◆会場・場所：市民交流プラザふくちやま 3F 視聴覚室

◆講演者：奈良県立医科大学准教授 周藤 俊治氏、福知山公立大学 地域経営学部教授 岡本 悦司

◆司会者：福知山公立大学 地域経営学部教授 芦田 信之

〔概要・趣旨〕

地域医療構想、地域包括ケアの推進の上で、ビッグデータの活用が重要となっています。地域医療構想を推進するため 2014 年度より全ての病院（精神科病院を除く）と有床診療所は毎年病床機能報告が義務づけられるようになり、DPC 病院についても病院別の詳細なデータが収集公表されるようになってきました。また 10 年目を迎えた特定健診・保健指導についても近く市町村別の詳細なデータが公表されようとしています。本セミナーでは、特に京都府と奈良県の地域医療の現状と将来について、地域密着型の研究を進めている福知山公立大学、奈良県立医科大学の研究者から報告するとともに、参加者と医療体制の今後を考えます。

司会者からの一言

周藤先生からは、奈良県南和医療圏における 3 つの公立病院の役割分担による連携体制の再構築事例の紹介と奈良県の医師数データから見た公表データの信頼

度やデータの持つ意味についての話があり、岡本先生からは、病床機能報告で公表されたデータをデータウェアハウス化することにより、だれもが使いやすいエクセルで処理する方法についてデモを交えながら説明がなされました。参加者の多くが医療関係者で、自分の仕事と提示されたデータの活用の効果が実感され、講演会が終わったのちも、相談が絶えず、関心の高さが伺えました。ただ、アンケート結果でも、「難しかった。」「何が言いたいのかよくわからなかった」という意見もあり、医療関係者でなければ、わからない専門用語やデータの持つ意味・意義がよくわからないという感想を持たれたかもしれません。このことは、地域創生セミナーの開催意図が、より専門性の高い議論の場であることから仕方がないものと考えていますのでご了承ください。次年度からは市民学習支援という公開講座の形でなく、研究会の形で開催を考えています。

〔詳細・内容〕

■周藤先生の講演

「データ連携がもたらす地域の可視化—不足の観点からみる医療 2.30—」とのタイトルで、地域で診療に従事する必要とされる医師数の観点からの講演で「①地域医療におけるデータの役割」、「②データの連携」、「③データの利活用について」の三部で構成されていました。

「①地域医療におけるデータの役割」においては、奈良県



南和医療圏の病院再編において、データがどのような役割を果たしていたのか、背景も含めた説明がなされ、実際に必要とされる医師がどのようなプロセスで最終的に地域の医療機関で活躍しているのか、様々な資料を提示しながら説明をされました。

「②データの連携」では、複数のデータセットを連携させることで、辻褄の合わないデータの検証を行ったケース、そして実際に調査された医師数と、他のデータから求めた推定医師数の比較について、具体的なデータセットの提示などについて説明がなされました。

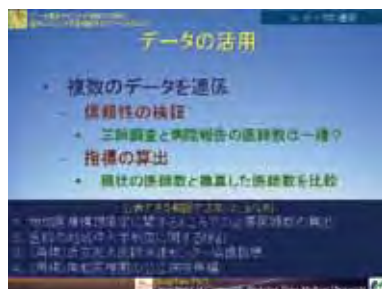
「③データの利活用について」は、これまでにデータを分析してきて、思ったことや気をつけなくてはいけない点等について説明をされました。

当日の講義内容については

<http://www.medbb.net/education/fukuchiyama20190220/index.html>

にて 公開されているのでご参照ください。

当日スライド抜粋



■岡本先生の講演

病床機能報告データウェアハウス化による地域医療の「見える化」

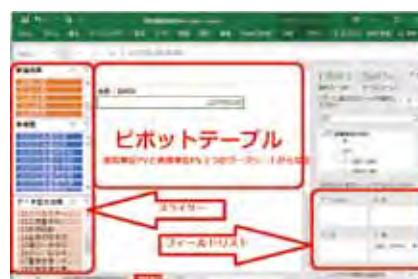
団塊世代全員が後期高齢者になる 2025 年には特に都市部において、慢性期回復期病床や介護施設の不足が深刻化すると予想されますが、都道府県には民間医療機関に病床再編を命令する権限はありません。そこで、関係者で構成される地域医療構想調整会議を通じて自発的な再編を促すのが地域医療構想です。そこで用いられるデータとして病床機能報告が 2014 年から開始され、全病院（精神科病院除く）と有床診療所の個票が Excel 等で公表されるようになりました。

しかし 7500 もの病院のビッグデータはそのままでは分析困難であり、Excel ピボットテーブルのように操作できるデータウェアハウス化を試みました (Excel ファイルは <http://www.jmedicine.com/> 病床機能報告 DWH.xlsx よりダウンロード可能)。

ダウンロードされた初期画面は下の通りで、病院単位と病棟単位のワークシートがあります。左のスライサーで都道府県＞医療圏＞市町村＞病院＞病棟とスライスし次に右のフィールドリストの行、列欄にフィールドをドラッグすることでピボットテーブルに表示されます。

こうすることにより、たとえば中丹医療圏の病院ごとの全身麻酔腹部手術数を自在に表示させることも可能となります。

データウェアハウス化により、ビッグデータを自在に集計でき、地域医療構想調整会議や関係者による活用を期待します。



子ども学び支援事業

富野副学長の天文教室

美しい宇宙のことをもっと知ろう！

◆平成 30 年 8 月 10 日（金） ◆会場・場所：福知山市児童科学館プラネタリウム

◆講演者：福知山公立大学 副学長 富野 暉一郎

〔概要・趣旨〕

福知山市内の小中学生と保護者の皆さん約 80 名を対象に、三段池公園内にある児童科学館プラネタリウムを会場に 2018 年 8 月 10 日（金）午後 5 時 30 分から 6 時 30 分まで開催されました。ハッブル宇宙望遠鏡が撮影した美しい宇宙の映像を見ながら、私たちに身近な太陽系のファミリーから全天にちりばめられた星の世界、そして星たちが集まった巨大な銀河の世界まで、最新の宇宙の姿を解説し、質問にも答える楽しい時間でした。



1. 火星大接近

2018 年 7 月 31 日、太陽系の第 4 惑星で地球に近い環境だといわれる火星が地球に大接近しました。

火星には生物がいるかどうか話題になっていますが、平均気温は -43°C で大気の 95% が二酸化炭素という厳しい世界です。ただハッブル望遠鏡や火星探査機は、火星の表面に水が流れた跡があることや、氷とドライアイスがあることをはっきりと私たちに教えてくれました。



2. 太陽ファミリーにようこそ

太陽ファミリーには、

①地球型惑星、木星型惑星（ガス惑星）

天王星型惑星（氷・水惑星）などの惑星

②惑星の周りを回る衛星

③岩や氷でできた小さな小惑星

④流れ星の元になる宇宙のちりを撒き散らして太陽の周りを回る彗星などがあります。



3. 星のファミリーにようこそ

星は宇宙に漂うガスやチリが集まったところでできます。そして夜空を明るく彩って輝き、やがて爆発したりガスを撒き散らしたりして死んで行きます。



星の終末（ガス星雲）



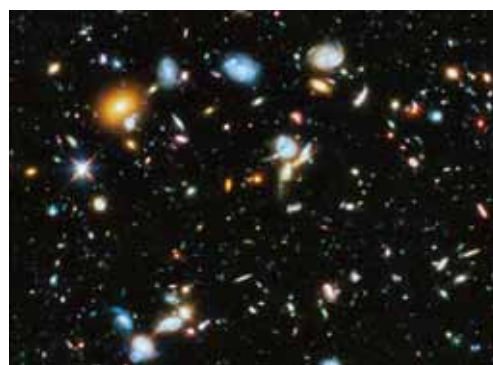
ガスの中から星の誕生



オリオン座

4. 銀河のファミリーによるこそ

天の川は私たちが住んでいるひとつの銀河です。大きな銀河の星の数は 2000 億個から 4000 億個といわれています。宇宙には銀河が集まってできた銀河団という集まりがあり、さらに宇宙全体の十分の一程度の大きさを持つ宇宙の大構造（グレートウォール）などがあります。ハッブル宇宙望遠鏡は、このような宇宙の姿を調べるために重要な役割をしています。

アンドロメダ星雲
(天の川銀河の兄弟銀河)おとめ座星雲団（約 1 億光年）
数百の銀河の集まりですハッブル望遠鏡によってはじめてみる事が
できた宇宙のはじめごろの姿
(100 億光年以上)

ありがとう！

神秘にあふれる美しい宇宙の姿を届けてくれたハッブル宇宙望遠鏡

なおこの事業は、福知山公立大学市民学習・キャリア支援センターの主催、
福知山市都市緑化協会の共催で開催されました。

児童館国際食文化交流事業

本事業の目的：

- ①児童達の学習環境多様化を目指し、小さい頃から国際的文化交流活動を通じて、異文化理解と友好親善を深めること。
- ②本学学生の参加により、地域に貢献すると共に、学生のイベント企画能力、運営能力等を鍛え、さらに、本学学生の異文化コミュニケーション能力を高めること。
- ③児童館で交流会を通じて、外国籍市民が日本の純粋な子ども達との交流で、更に地域への愛着心が強くなり、安心して福知山市で暮らせること。
- ④日本語を学ぶために日本語教室に通う外国籍市民が交流会を通じて、自分の国の文化等を子どもに教え、自分の国の料理を子ども達と一緒に作る中で、日本語能力を高める、交流会が日本語学習者の実践の場となること。

事業概要：

- ①外国人講師による簡単な外国語の日常会話の学習。
- ②外国の教育、歴史、地理、自然、社会、食文化、日常生活等の紹介。
- ③外国の料理作り体験、試食会。
- ④外国のダンス、伝統文化の披露など。
- ⑤児童達による感想発表。

実施について：

- ①実施者：福知山公立大学教員、日本人学生及び留学生・児童館職員。
地域在住外国籍市民。
- ②対象者：小学生、地域老人会、婦人会。（児童館による参加者の募集）
- ③実施場所：各児童館、大学。
- ④実施時間：各児童館の年間スケジュールに合わせる。
- ⑤実施内容：各児童館との打合せで決める。

実施役割：

児 童 館 側	大 学 側
▷料理器具、プレゼン用具、場所などの提供 ▷参加者の募集 ▷料理食材の購入 ▷感想文の作成など	▷プログラム作成 ▷プレゼン用教材作成 ▷大学内広報宣伝 ▷外国籍市民依頼など

実施スケジュール：

日 時	児 童 館	概 要	参加者数
第 1 回 10 月 20 日 (土) 10:00 ～ 14:30	丘児童センター	▷児童館職員（会場設営等） ▷地域経営学部 助 教 張 明軍（総括）	▷児童 26 名 ▷保護者 3 名 ▷本学大学生 1 名 ▷フィリピン国籍市民 1 名 ▷講師助手 1 名
第 2 回 10 月 27 日 (土) 9:30 ～ 14:30	菟原児童館	▷児童館職員（会場設営等） ▷地域経営学部 助 教 張 明軍（総括）	▷児童館職員 4 名 ▷児童 6 名（保護者なし） ▷地域住民 6 名 ▷福知山在住中国籍市民 2 名
第 3 回 12 月 1 日 (土) 10:00 ～ 14:30	福知山公立大学 4 号館	▷児童館職員 ▷地域経営学部 助 教 張 明軍（総括）	▷児童センター職員 4 名 ▷児童 6 名（保護者なし）
第 4 回 12 月 8 日 (土) 10:00 ～ 14:30	南有路児童館	▷児童館職員（会場設営等） ▷地域経営学部 助 教 張 明軍（総括）	▷児童館職員 3 名 ▷児童 15 名 ▷保護者 1 名 ▷本学大学生 2 名 ▷綾部在住タイ国籍 1 名
第 5 回 1 月 12 日 (土) 9:30 ～ 12:30	堀会館	▷児童館職員（会場設営等） ▷地域経営学部 助 教 張 明軍（総括）	▷児童館職員 3 名 ▷児童 15 名（保護者なし） ▷本学大学生 2 名

実施詳細：

国際食文化交流会の内容として、主に、外国知識の学習、外国料理作り体験、試食、外国文化を表す伝統的ダンス、ゲーム集合写真等を実施した。第一回はフィリピン文化交流会で、講師は福知山市在住の Irene Camposano さんで、フィリピンの一般常識、フィリピン料理(アドボ、シニガンスープ)の作り方とバンブーダンスを教えてくださいました。第二回、第三回、第五回は中国文化交流会で、講師は本学の張助教で、講師補助として中国籍福知山市在住の馬現省、蘇展さんも参加しました。中国の一般常識、水餃子、ゴマ団子の作り方、切り絵の切り方、太極拳等を教えました。第四回はタイ文化交流会で、講師は綾部市在住の内藤シリンドイブさんで、タイの文化、タイ料理（タイすき焼き）の作り方、タイの伝統ダンスなどを教えてくださいました。

第一回、第二回、第五回の交流会に本学の学生スタッフも参加し、作業の手伝いと児童達の対応などに活躍しました。



実施まとめ：

近年、地域に訪れる外国人観光客、または就労を目的とする外国人労働者が急増することに伴い、日常生活の中で、子ども達が外国人と出会う機会もますます増えています。多文化社会になりつつある現状において、子ども達の学習環境の多様化の実現を因んで、異文化教育環境を整える必要性があります。

本事業は児童達が小さい頃から国際的文化交流活動を通じて、外国の文化等を学び、異文化理解能力の育成に役割を果たすことを目指しています。例年通り、本年度も各児童館と連携し、地域在住外国籍住民を招き、計五回の国際交流会を開催しました。外国籍講師達が、母国の事情を紹介し、子ども達に母国の料理、ダンスなどを教え、子ども達と触れ合うことを通じて、日本の地域社会への理解が深められ、充実な日本の暮らしになったと考えられます。一方、アンケートの集計結果から、児童達が外国の文化を学習し、体験したことを通じて、異文化に対する学習意欲、外国人との接触意欲、異文化交流活動への参加意欲が全て、強くなっていることがわかります。また、子どもの人生観、価値観等の形成に重要な役割を果たす保護者が本事業を高く評価していることから、子供の異文化教育において、本事業の趣旨が保護者達の意向と一致していることがわかります。アンケート集計結果により、児童及び保護者の両視点から、本事業は児童の異文化教育の役割を果たし、今後、継続にあたり、国際交流の実施内容、事前の知らせ、実施後の効果確認等をより詳細に計画し、取り組むべきだと考えられます。（アンケート集計結果の詳細に関しては、報告書冊子の後ろにある集計結果を参照してください。）

最後に本年度の交流活動の実施にあたり、各児童館の職員、外国籍住民のご協力を頂いたことにより、順調に開催できました。アンケート調査にご協力を頂いた保護者の皆様を含むすべての関係者に心より御礼申し上げます。

京都社会人大学校 北近畿校

京都社会人大学校 北近畿校

永い人生における教養の向上、仲間づくり、生きがいの創造、よりよい生活設計や積極的な社会参加を行う

◆2018年5月～12月 ◆会場・場所：福知山公立大学2号館 Co-Lab スペース

〔概要・趣旨〕

京都高齢者大学校は、「永い人生における教養の向上、仲間づくり、生きがいの創造、よりよい生活設計や積極的な社会参加を行う」ことを目的に2013年に京都市内で開校した関西文理総合学園、長浜バイオ大学が運営する社会人、高齢者の学びの場で2018年度は京都校では約700名の方が受講されています。

2017年9月、従来から課題となっていた北部地域の皆さんにも学びの場を提供しようと北近畿校を開校しました。開校は福知山公立大学に共催いただくことで実現しました。福知山公立大学には教室をお借りするとともに、井口学長に校長を引き受けて頂く等、全面的な支援を頂きました。

開校にあたっては、京都北部にとどまらず、経済圏、文化圏が重なる北近畿圏全体の文化と学びの向上に資するとともに、福知山公立大学の周知

と発展にも貢献したいと考えております。

2017年度は、時事問題、歴史、健康の3講座に127名の受講を頂き、2018年度は校名を社会人大学校に改めると共に、自然科学講座と美術鑑賞講座を加え、5講座を開講し、147名に受講頂きました。受講生には毎月、講座の状況を伝える北近畿校通信を12月まで毎月発行しました。通信にはアンケート用紙を同封し、講座についての意見、感想をお聞きしました。社会大学校については京都新聞、両丹日日新聞、綾部市民新聞、舞鶴市民新聞、FMいかるなどマスコミも積極的に報道頂きました。

2019年度は新たに漢字学講座を加えて6講座に増やし各講座とも年間8回開校し、200名を超える受講者を目指しています。(京都社会人大学校北近畿校事務局)





まちびとゼミ

「福知山の歴史文化に触れる～学ぶ！習う！踊る！福知山踊りとドッコイセまつり」

- ◆第1回 2018年7月15日(日)13:30～15:30 福知山公立大学 まちかどキャンパス吹風舎
 ◆第2回 2018年8月9日(木)19:00～20:00 福知山商工会館4階

〔概要・趣旨〕

市民の方を講師に学びと交流の場を作る【まちびとゼミ】。本講座では、「福知山の歴史文化に触れる」をテーマに、福知山踊振興会の方々を講師に福知山が誇る郷土芸能「福知山踊り」の歴史や魅力を学び踊りを体験しました。

全国から集う福知山公立大学の学生が福知山の歴史文化に触れる機会は多くはありません。そこで、「福知山踊り」をテーマに郷土芸能を学び、体験を通して福知山の歴史文化に関心を持ち地域への愛着を醸成するとともに、地域特性を理解する一助とすることを目的として開催しました。

加えて、近年踊り手が減少し停滞気味である福知山ドッコイセまつりに学生が参加することは大学の地域貢献活動としても重要であると考え企画しました。

〔詳細・内容〕

第1回 学ぼう！習おう！～福知山踊りと福知山ドッコイセまつりの歴史と魅力

日時：2018年7月15日(日)13:30～15:30

会場：福知山公立大学まちかどキャンパス 吹風舎
 新町商店街内（一番南のブロック）、福知山市
 字上新7番

講師：レクチャー 福知山踊振興会代表 田村卓巳さん
 踊り体験 福知山踊振興会

参加者：計20名

市民 13名（一般6名、福知山踊振興会7名）

学生 7名

内 容

市民が講師となり学びの場をつくる「まちびとゼミ」。今回は、福知山踊振興会のみなさんにお越しいただき、第1部では会長の田村卓巳さんから福知山踊りの歴史や保全振興活動の経緯を学びました。

第2部では、福知山踊振興会のご指導のもと、踊り体験を実施しました。初めて踊る学生がほとんどでしたが、なんとか16の手振りができるようになりました。参加学生からは、お盆のドッコイセまつりで公立大学から「連」を出したいとの声上がり、8月の福知山ドッコイセまつりで実現しました。



第2回 習おう！踊ろう！～ドッコイセまつり踊り練習会」

日 時：平成 30 年 8 月 9 日（木）19:00～20:00

会 場：福知山商工会議所 4 階

＊福知山ドッコイセまつり実行委員会主催の第 2 回ドッコイセまつり踊り練習会と共同で開催しました。

参加者：約 60 名（一般参加約 60 名、学生 4 名）

内 容

第2回目は、福知山ドッコイセまつり実行委員会主催の第 2 回ドッコイセまつり踊り練習会と共催で開催しました。福知山商工会館を会場に行われ、約 60 名の参加があり熱気ある練習会となりました。学生の参加は夏季休暇に入っていたこともあり 4 名と少数でした。参加した学生は多くの市民と共に踊り大いに交流を楽しんでいました。



8 月に開催された「福知山ドッコイセまつり」には、まちかどキャンパス吹風舎学生企画チーム DOKKO のメンバーを中心に約 10 名の「連」を結成、参加しました。8 月 24 日に開催されたプラカードコンテストでは広小路商店街理事長賞を受賞しました。学生たちの踊りに大きな声援をいただきました。



まちびとゼミ

学ぼう！やってみよう！「認知症 × 地域社会」

～認知症の人と伴に走る全国リレー「RUN 伴」が福知山にやって来た～

◆2018年10月17日(水)18:30～20:30 ◆会場・場所：まちかどキャンパス吹風舎

◆講演者：坂元 勝良氏、上原 亜弥氏

〔概要・趣旨〕

市民を講師に学びと交流の場を作る【まちびとゼミ】。今回は、「認知症と地域社会」をテーマに、認知症の人や家族、支援者、一般の人が少しずつリレーをしながらタスキをつなぎ、ゴールを目指すイベント「RUN 伴 2018」に取り組みを通して学びました。

講師のまちびとは、福知山市高齢者福祉課の上原亜弥さんと福知山 RUN 伴実行委員会の坂元勝良さんのお二人をお迎えしました。認知症や「RUN 伴」の活動について学び、認知症への理解を深めるとともに支援の活動について考えました。

〔詳細・内容〕

学ぼう！やってみよう！「認知症 × 地域社会」

～認知症の人と伴に走る全国リレー「RUN 伴」が福知山にやって来た～

日 時：平成 30 年 10 月 17 日 (木) 18:30～20:30

会 場：福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎

講 師：坂元 勝良さん

福知山 RUN 伴実行委員会 代表

特定非営利活動法人

市民力支援工房つむぎあい福知山 理事長
上原 亜弥さん

福知山市高齢者福祉課

参加者：14 名 (内学生 1 名)

〈内容〉

認知症の人と伴に走る全国リレー「RUN 伴」に福知山市の市民が参加するのは今年が 2 年目になります。特定非営利活動法人市民力支援工房つむぎあい福知山が中心となり市民有志で北海道を出発したバトンを舞鶴に繋ぎます。まちかどキャンパス吹風舎の学生企画チーム DOKKO に参加の呼びかけをいただいたことから、認知症について学ぶ場を作りたいと「認知症 × 地域社会」をテーマに開催することになりました。

ゼミでは、まず福知山市高齢者福祉課の上原さんより、認知症の基礎知識と福知山市の政策や取り組みについて紹介いただきました。続いて、福知山 RUN 伴実行



委員会代表の坂元さんより、「RUN 伴」に取り組むことになった経緯や思い、昨年度の様子をご紹介いただきました。坂元さんご自身も「RUN 伴」の活動に参加することで認知症への関心が高まり理解が深まったこと、他人事ではないことを、実感を込めて話す言葉に参加者は傾き聞き入りました。

ゲストのお二人から「学び」を得たのち、認知症について話し合うワークショップを行いました。参加者の中には仕事で認知症に関わる方もあり、テーブルを囲んでの話し合いでは疑問や不安を参加者同士が問いかけ学び合う有意義な場になりました。



また、2018年10月21日(日)に開催された「RUN伴」には、本学より10名の学生が参加しました。「認知症の人と一緒に、誰もが暮らしやすい地域を創る」ことを願う市民とともに揃いのTシャツを着て走りタスキをつなぎました。この体験は、学び多き機会となりました。



社会人キャリア支援

- 京都北都信用金庫との共同研修
- 職業人向け開発型インターシップ

〔概要・趣旨〕

近年、政府において、「人生 100 年時代」を見据えた経済社会の在り方が議論され、社会人の学び直しをはじめとしたリカレント教育に注目が集まっています。北近畿地域においても、地域経済・社会の持続的な発展を実現する上で、人材育成は必須の課題になります。

今年度から、本センターでは、社会人のキャリア形成に資する学び直しをテーマにした事業に着手し、試行的な取り組みを実施しました。

〔詳細・内容〕

◆京都北都信用金庫との共同研修

2017 年 3 月に、本学と京都北都信用金庫の間で、「連携・協力に関する協定」が締結されました。同協定では、持続可能な社会の維持・発展を推し進めるために、調査・研究、事業、人材育成をはじめとした取り組みでの連携と協力が盛り込まれました。

こうしたなかで、同金庫との間で、地域経済に関する調査研究活動に資する知識・技能の習得を目的とした研修を実施しました。本学の三好ゆう准教授が講師となり、市町村別産業連関表の作成をテーマに、貴金庫の職員及び本学の学生を対象にした演習を行いました。

◆職業人向けキャリア開発型インターンシップ

平成 30 年度「近畿経済産業局における地域中小企業・小規模事業者の人材確保支援等事業」の一部について、パーソルキャリアコンサルティング(株)より委託を受けて実施しました。当事業はパーソルキャリアコンサルティング(株)を中心に、地域の中小企業が抱える経営課題を解決するため、大手企業からの企業人材（以下「参加者」という）2 名を、京都府北部地域の中小企業に派遣するものです。その際に、大手企業からの参加者を本学が研究員として受け入れ、訪問先の中小企業の課題が整理できるように、本学教員と外部講師による特設演習（1 日 3 時間、全 3 回）を行いました。

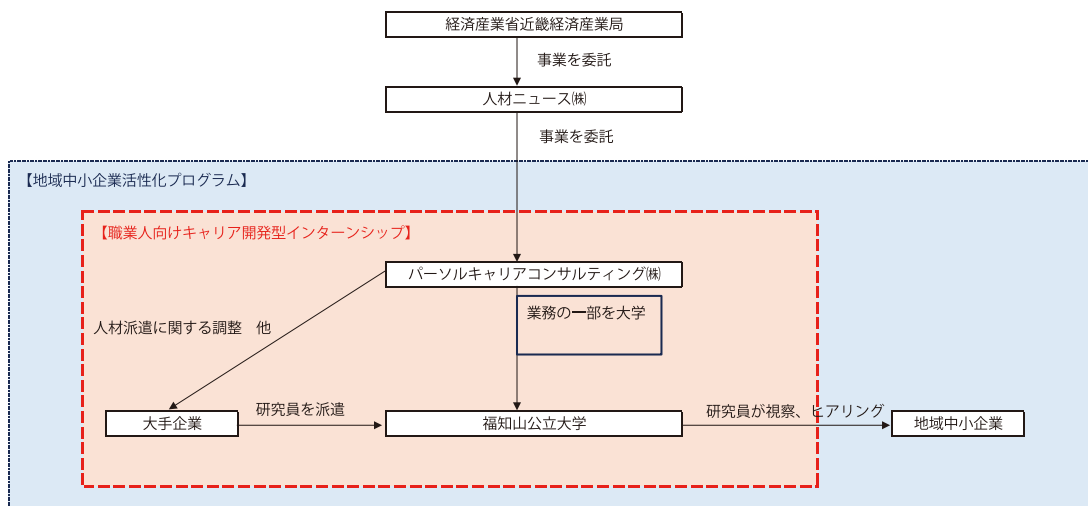




※本事業の実施体制は下図の通りとなります。

【平成30年度「近畿経済産業局における地域中小企業・小規模事業者の人材確保支援等事業」】

別図



福知山公立大学

まちかどキャンパス吹風舎（ふくちしゃ）

〔概要〕

大学からまちに出て、「まちかど」に設けるまちかどキャンパス「吹風舎（ふくちしゃ）」は、大学の教職員・学生と地域の人々が集い、交流する機会と場をつくる「いえ（舎）」です。多様な人々が集い、話し合いや共同作業を通して学び合い、持続可能な地域社会形成の担い手となる人を育てる場を目指しています。

また、まちかどキャンパスを地域住民が集う「場」と見立てて、地域の公民館や集会所を活用して取り組まれる住民主体の事業モデルを提供することも目的としています。

2018年5月20日に開設記念式典を行いオープンしました。本学学生や地域住民に広く利用いただき、ひと月平均500人の方々にお越しいただきました。

〔詳細・内容〕

■機能・空間と事業

まちかどキャンパスの機能と空間を使い、初年度試行実施した事業です。

実験的な取り組みを重ねつつ地域の人々のご意見や関わりから、恐れず変化・進化する「場」でありたいと考えています。

① Library

（ライブラリー：交流する図書室・読書室）

まちライブラリー福々 BOOKS@福知山公立大学

本をきっかけにつながりを生む、思いと本を持ち寄ってつくる小さな図書館です。

② Gallery（ギャラリー：学ぶ・感じる展示と情報発信の場）

まちかどギャラリー

地域で活躍する様々なジャンルのクリエイター、作家たちの仕事を紹介していました。

大学活動紹介、情報提供

大学での研究や学生のゼミ活動の成果を展示しました。

③ School（スクール：みんなで学び合う場）

福知山公立大学公開講座の開催

井口学長塾

学長井口先生が塾長を務める近代史をテーマにした学びの場です。参加者が運営に主体的に関わる学びのコミュニティが形成されています。

まちびとゼミ

地域の人々が講師となり、学びと交流の場をつくっています。今年は「福知山踊り」と「認知症」の二つのテーマで開催しました。

まちびと起業塾（社会起業家の育成、ソーシャルビジネス立ち上げ支援）

地域に暮らし地域で商う小さな商い起業塾を開催します。本年度は「まちの『スキマ』で小商い」をテーマに実施しました。

④ Café（カフェ：出会いと交流の場）

想て成しかふえ

学生がコーヒーを淹れるコミュニティカフェ。地域住民と学生が交流する場をつくりました。

⑤ Workshop（ワークショップ：知恵を集めて企て実践する場）

地域プロジェクト（学生企画チーム DOKKO が中心となり地域と協力して事業を実施）

ふく子屋プロジェクト

「学び」を大きなテーマに地域の小学生と大学生が交流する会を放課後に行いました。互いに学び、成長する場をつくることを目指して活動しています。

福おじばプロジェクト

高齢者と学生が楽しく交流することを通して助け合うつながりをつくり、一緒に楽しく安心して暮らせる地域づくりを目指しています。地域活動への参加や交流会を開催しました。

大学ゼミ活動での活用

本学が推進する地域協働型教育の拠点施設として活用しました。ゼミ活動の演習室としての利用やイベントやワークショップなど協働実践の社会実験の場として活用されました。

⑥ 多様な市民活動を支援する場

市民活動など公益活動での利用を推進しています。予約なく利用できる少人数のミーティングから大人数で貸し切ったのワークショップやセミナーなど、様々な活動に活用されました。

（まちかどキャンパス専門委員会）



コンセプトを実現する機能と空間の概念図

福知山公立大学公開講座
テーマ『地域 × 大学 - 京都工芸繊維大学と福知山公立大学の試み』
アンケート集計結果

第一部「京都工芸繊維大学の福知山キャンパスでの教育研究について」

講師：京都工芸繊維大学教授 学長補佐 桑原 教彰 氏

第二部「地域と学生が交流し助けあう暮らしのカタチを考える」

講師：福知山公立大学 教授 谷口 知弘 氏

【アンケート実施概要】

参加者数	30名
回答者数	22名
回収率	73%

【Q1】「京都工芸繊維大学の福知山キャンパスでの教育研究について」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
13	4	3	0	0	2

- ・勉強するうえで最も自由でかつ“苦勞のしがいのある”時期を地方で過ごすことの意味合いを学生さんには謳歌してほしい。
- ・工織大が何をされるのか、具体的なイメージがわいた。
- ・産業・人間社会の活性化の具現化に向けての活動に大いに期待しています。
- ・現場を知るといのは仕事においてもすごく大事だと思う。
- ・大学ならではの問題や課題をさらにもっと自由に別視点の研究も深められたら楽しいだろうなあと思いました。
- ・今後の地域の事で活動が具体的に見えおもしろく、本気度がみえた。

【Q2】「地域と学生が交流し助け合う暮らしのカタチを考える」について

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
17	3	0	0	0	2

- ・シェアハウスは面白いなと思った。
- ・地域との関わりを大切にされていることが良く分かった。
- ・あたり前にあった日常のかかわりも、「限界まちづくり」として生み出す時代なのだなあと、たいへん興味深く拝聴しました。
- ・学生が動員をかけられるようなイベントなどに疑問を抱くことがあったのですが、限界まちづくりのような互いに無理のないゆるいつながりが増えたらいいと思います。
- ・お互いに自然と会話しあえる関係が育めるのがよい。高校生も混じって可能性が広がるともったいい。
- ・地域学生が少しだけ出来ることを増やせることで新しい事がうまれる。

【Q3】福知山公立大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。

どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・高大連携の取り組み。
- ・街の未来に対する税の使われ方の決まるプロセスなど、決して良し悪しではなく身近な税の使われ方が可視化できるような教材、伝え方がわかるような講座があったら出てみたいです。

- ・福知山を中心とした歴史・観光地等を学べる講座。
- ・今、気になる、異常気温、災害等に対する個人の注意などに対する視点について学び方について教えていただければと思います。
- ・人口増のためのあらゆる関係する講座。

【Q4】 その他、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・北近畿、府北部に総合大学（国際系・医学部を含む・平和・軍縮・防災を研究する）を創立させたらどうか？
- ・出来れば、土日に一般市民が参加できるようにしてほしい。
- ・分かりやすい説明でよかった。

【Q5】 集計資料とさせていただきます、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 18名、女性 4名 不明 0

2. 年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
	3	3	2	4	5	3	2	0

3. お住まいの場所 市内 14名、市外 4名（舞鶴市、与謝野町）、不明 4名

【Q6】 この講座を何でお知りになりましたか？

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他
6	4	2	6	4

【Q7】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？＜複数回答あり＞

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
2	2	14	2	5	3	0

福知山公立大学公開講座

テーマ『地域 × 大学 - 京都工芸繊維大学と福知山公立大学の試み』

アンケート集計結果

第一部「数字で見るまちの特徴と課題」

講師：福知山公立大学 准教授 井上 直樹 氏

第二部「地方創生のための博愛資本主義」

講師：関西学院大学大学院 教授 石原 俊彦 氏

【アンケート実施概要】

参加者数	28名
回答者数	20名
回収率	71%

【Q1】 「数字で見るまちの特徴と課題」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
8	6	2	1	0	3

- ・分かりやすく聞きやすかった。
- ・Resas の結果をゼミとして地域へ確かめに出るという発想は良い。
- ・Resas は使い方が分からず、説明を聞きたいと思っていたので有意義でした。地方創生コンテストに興味あります。
- ・Resas 初めて聞く単語でした。とてもためになりました。仕事でも活用したいと思います。
- ・ていねいで分かりやすかったです。財務情報だけでは金額の多少で評価されがちで、非財務情報は感情で判断されがちなところを、分かりやすく結び付け説明する必要があると感じた。

【Q2】「地方創生のための博愛資本主義」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
8	6	5	1	0

- ・新しい考え方、視点で参考になった。
- ・市町村公務員のあり方を示していただいた。
- ・新しい考え方だと思いましたが、市民協働や地域経営ですね。
- ・これからの組織のあり方や地域とのかわりについて示唆をえられた。
- ・資産運用の考え方について仕事の内容を精査する必要があると感じた。

【Q3】 福知山公立大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・公民連携 (PPP) について。
- ・インバウンド観光 異文化理解。
- ・地域づくり、環境問題。
- ・将来の福知山のあるべき姿、なりたい姿について社会人や大学生を交えて討論する。
- ・公立大学、市内高校生との座談会 未来を担う人材の生の意見を伺いたい。
- ・一つのテーマでの連続講座で深める機会もほしいと思います。

【Q4】 その他、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・大変わかりやすく参考になりました。次回も出席します。
- ・話を聞ける機会はありがたいです。
- ・パワーポイントの資料をいただければより理解が進んだのではないかと感じました。
- ・若い人の参加がもう少しあればと考えます。

【Q5】 集計資料とさせて頂きたく、性別、年齢についてお伺いします。

- 性別 男性 12 名、女性 6 名、不明 2 名
- 年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	未回答
0	0	4	6	5	3	1	0	1

- お住まいの場所 市内 11 名、市外 7 名（豊岡市、京丹後市）、不明 2 名

【Q6】 この講座を何でお知りになりましたか？

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他	未回答
8	3	0	5	3	1

その他（Face Book、大学職員より、市職員）

【Q7】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？＜複数回答あり＞

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	1	13	1	2	3	2

福知山公立大学公開講座
テーマ『地域 × 大学 - 情報学の理論と地域での実践ー』
アンケート集計結果

第一部「話ができるコンピューター音声認識と会話ロボットの最前線ー」

講師：京都大学 情報学研究科 教授 河原 達也 氏

第二部「話ができるコンピューター音声対話のための言語処理ー」

講師：福知山公立大学 地域経営学部 教授 山田 篤 氏

【アンケート実施概要】

参加者数	18名
回答者数	8名
回収率	44%

【Q1】「話ができるコンピューター音声認識と会話ロボットの最前線ー」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
1	5	0	1	0	1

- ・ 現在、音声対話は” 対話の博物学” とでもいうべき段階である、というのは非常に個人的に重要な発見だったと思う。
- ・ 音声認識技術、現状が良く分かった。
- ・ 音声認識の世界を体感できました。実生活にはもう少し時間がかかると感じました。
- ・ 「なるほど」と思う。認識方法など理解できる内容でした。
- ・ 自動翻訳についてもお話を聞きたかったです。

【Q2】「話ができるコンピューター音声対話のための言語処理ー」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
3	4	0	0	0	1

- ・ 言語処理に絡む法律（契約）の観点がとても刺激的だった。
- ・ 音声対話の実現のため、スマートスピーカーの正しい使いかたなどが良く分かった。
- ・ スマートスピーカーについて詳しく知ることができました。
- ・ 身近に考えていた疑問が解明しました。
- ・ 話がクリアでわかりやすかったです。先生の音声対話に期待しています。

【Q3】 福知山公立大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・ 地域振興。
- ・ 情報学部に関する講座。
- ・ AI の今後の使われ方について。

- ・画像、デジタルアートに関する講座

【Q4】 その他、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・民間や市民との協働で行う講座もあればと思います。
- ・市民向け発表会を多く開催していただくようお願いします。
- ・たくさんの講座ありがとうございます。画像処理、デジタルアートに関する講座を開いてほしいです。

【Q5】 集計資料とさせて頂きたく、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 5名、女性 1名、不明 2名
2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
0	0	0	3	2	3	0	0

3. お住まいの場所 市内 5名、市外 2名（市島町）、不明 1名

【Q6】 この講座を何でお知りになりましたか？

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他
6	0	0	0	2

その他（Face Book）

【Q7】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？＜複数回答あり＞

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	0	7	0	2	3	0

福知山公立大学公開講座 テーマ『地域 × 大学 - 多文化共生の理論と地域での実践ー』 アンケート集計結果

「フィンランドにおける多文化共生と公共図書館」

講師：福知山公立大学 地域経営学部 准教授 大谷 杏 氏

【アンケート実施概要】

参加者数	26名
回答者数	12名
回収率	46%

【Q1】 フィンランドにおける多文化共生と公共図書館」について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
3	6	2	1	0

- ・フィンランドの図書館のシステムが無料で使用して良いものが充実していること。オープンである事がわかった。
- ・フィンランド国内の様子が具体的に分かり、多文化の問題が重要となっている状況がわかった。
- ・フィンランドの知らなかった部分や公共図書館について学ぶことができて良かった。

【Q2】 パネルディスカッションについて内容はどうか。（実施していないため無効）

【Q3】 福知山公立大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。
どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・ 地域振興。
- ・ イギリスの EU 離脱について。
- ・ 専門の知識をわかりやすく説明する講座。
- ・ 外国人受け入れ（とくにアジアからの）福知山市。丹波市の例。

【Q4】 福知山公立大学に対するご意見、ご要望、ご感想、大学に期待する事についてお聞かせください。

- ・ 頑張られていますね。
- ・ 休憩の時間がもう少し欲しかった。

【Q5】 集計資料とさせていただきます、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 5 名、女性 3 名、不明 4 名
2. 年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代
0	0	2	3	1	6	0	0

3. お住まいの場所 市内 10 名、市外 2 名（舞鶴市、市島町）

【Q6】 この講座を何でお知りになりましたか？〈複数回答あり〉

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他
7	2	0	2	2

その他（前回の公開講座で）

【Q7】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？〈複数回答あり〉

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
1	1	9	2	2	0	0

福知山公立大学公開講座 テーマ『国際農村振興の理論と地域での実践』 アンケート集計結果

第一部「ベトナム農村の家族と都市、外国での労働」

講師：福知山公立大学 地域経営学部 教授 渋谷 節子 氏

第二部「アートを活用した中国新農村建設」

講師：福知山公立大学 地域経営学部 助教 張 明軍 氏

【アンケート実施概要】

参加者数	23名
回答者数	10名
回収率	43%

【Q1】「ベトナム農村の家族と都市、外国での労働」について内容はどうか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
4	4	2	0	0

- ・アジアの後進国といわれていた国々、タイやベトナムのことについて考えてみたいと折々思っている中、先生の講義に出会えてうれしく思います。ぜひ、今春から講義を受けたいと思っています。
- ・ベトナムの農村事情を知る事が出来ました。日本と対比して興味深く聞かせていただきました。
- ・写真も交えてベトナムの20年前と今を分かりやすくお話して下さり良かった。北と南の違いは大きいのだなと感じた。

【Q2】「アートを活用した中国新農村建設」について内容はどうか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
4	2	2	2	0

- ・中国のことについて、たとえば食については安くして、手段を選ばず大量生産だけにこだわっているイメージがあったが、先生の話から中国の流れが変わってきている事が良く分かりました。又、アートによって、田舎の地域おこしがかなうことが改めてよくわかりました。
- ・公的資金で村づくりができるが、日本ではどうなのか。
- ・アートの活用によって農村の活性化に役立てる話を興味深く聞く事が出来ました。
- ・農村とアートが結びつくものだという概念はなかった。お話から新しい農村をつくることは夢があり、楽しめるものと思った。
- ・中国の歴史も勉強になりました。

【Q3】福知山公立大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。

- どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。
- ・地域起こしの学びができるプログラムができたら良いなと思います。
 - ・国際交流。多文化共生社会の実現に向けて。
 - ・郷土の歴史について知る講座。
 - ・植物関連・園芸講座。

【Q4】その他、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・市との協同事業、連携。
- ・公開講座の回数を多くしてほしい。出来るだけ昼間の時間の開催を希望。
- ・メディアセンターの企画も楽しみです。頑張ってください。

【Q5】集計資料とさせていただきます。性別、年齢についてお伺いします。

- 性別 男性 3名、女性 2名、不明 5名
- 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明
0	0	3	1	2	2	2	0	0

- お住まいの場所 市内 8名、市外 2名（綾部市、京丹波町）

【Q6】 この講座を何でお知りになりましたか？

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他
6	1	0	2	1

その他（Facebook）

【Q7】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？<複数回答あり>

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	2	6	1	1	1	0

平成 30 年度 第1回 福知山公立大学 地域創生セミナー 「観光 -1 大河ドラマとシティプロモーション」 アンケート アンケート集計結果

講師：中村 忠司 氏（大阪観光大学 観光学部 教授、同大学観光学研究所 所長）

【アンケート実施概要】

参加者数	26名
回答者数	18名
回収率	69%

【Q1】 講演「大河ドラマとシティプロモーション」について、内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
13	5	0	0	0

- ・大河ドラマ館を中心とした話が聞けて、福知山ではどうすればよいか整理できた。
- ・大変具体的、理論的で分かりやすかったです。
- ・継続した誘客には個人へのアプローチの取り組みが大切であるという事が良く分かりました。
- ・大河ドラマと観光の関係性が良く理解できました。
- ・質疑応答の時間の内容が大変良かったと思います。
- ・すごく分かりやすく、今まで見なかった大河ドラマに興味を湧いたので見ようと思えました。
- ・成功例、失敗例など、今後の課題として考慮することができました。

【Q2】 福知山公立大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・中世の丹波・仏教講座。
- ・1. 福知山と観光 2. 福知山の歴史と未来 3. 福知山の地域活性化 4. 魅力ある福知山にするには
- ・どうすれば東京だけでなく、私たちの住んでいる地域にも人が集まり、若者が興味を持つことができるか。
- ・福知山の財政講座の開講。

【Q3】 その他、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・公立大生さんとの意見交換会。
- ・福知山の観光に向けての整備の重要性、課題が明確になりました。今後、大河ドラマ放送終了後や若い世代の方をいかに惹きつけるかが重要である。

- ・今回初めてセミナーに参加させていただきましたが、講演とは違いフラットで一般市民も参加しやすかったです。

【Q4】 集計資料とさせて頂きたく、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 11名、女性 5名、不明 2名
2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
1	1	3	6	3	4	0	0

3. お住まいの場所 市内 11名、市外 5名（丹波市、朝来市、綾部市）、不明 2名

【Q5】 この講座を何でお知りになりましたか？〈複数回答あり〉

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
5	3	4	3	3

その他（SNS、大学職員より、職場で）

【Q6】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	0	3	5	8	2	0

平成 30 年度 第2回 福知山公立大学 地域創生セミナー 「防災医療 -1 避難所のあり方を考える」 アンケート集計結果

講師：神崎 初美 氏（兵庫医療大学 看護学部看護学科 教授）

【アンケート実施概要】

参加者数	45名
回答者数	37名
回収率	82%

【Q1】 講演「避難所のあり方を考える」について、内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
22	10	5	0	0

- ・自助、共助での対応の話が、疑問、質問により深められた。1 回だけでは満足ということにはならない。シリーズ化してほしい。
- ・3.11 後の避難所の様子などリアルなお話に、当時体験した支援活動を思い出しました。日常的な訓練、備えが大切ですね。
- ・講演の後半部からの事前の地域分析、シミュレーションなどが重要だと理解できた。
- ・長期の避難所運営について具体的な話が聞けて良かった。
- ・講演では色々な人の意見、質問へのやりとりが参考になりました。また、もう少しゆっくり避難所運営を中心とした話が聞きたいです。

- ・地域住民として誰でもできる取り組み、配慮を具体的に聞けて勉強になった。
- ・講演のあとのみなさんの質問を聞きながら、講演内容が良く分かった。
- ・実践レベルの話から、社会、行政まで幅広く勉強になりました。

【Q2】 福知山公立大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・災害時の横のつながり（行政、社協、その他団体などのつながり）。
- ・専門性を大切にしながら、誰もが参加できる防災支援活動のあり方や、初期対応のあり方など皆さんと一緒に学べたらいいですね。
- ・人口減少とコンパクトシティ建設等の課題。
- ・医療機関が備えるべき体制、システム。
- ・地域連携の手法。
- ・防災について、防災復旧への支援、原子力災害への対応。
- ・地域経済とネット社会を考える。

【Q3】 その他、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・要擁護者の健康状態を聞き出す調査は難しいと思える。
- ・参加数が多く、地域としては良かった。
- ・今夏の相次ぐ災害の発生で、我町でも、避難するケースが増えている。公助一辺倒から、自助→共助の重要性を避難者自身がどういう行動が必要かをもっともっと周知すべき。
- ・防災に関し今後勉強したい事。有事（水害、地震等）に備え、自助として共助としてやっておくべき事、個人が自治体が取り組むべき課題。
- ・「地域創生セミナー」初めて参加しましたが、いろいろな方が参加されており興味深かったです。

【Q4】 集計資料とさせて頂きたく、性別、年齢についてお伺いします。

- 性別 男性 19名、女性 18名
- 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	未回答
0	2	4	7	9	10	4	0	1

- お住まいの場所 市内 22名、市外 5名（綾部市、京丹後市、京丹波町）、不明 10名

【Q5】 この講座を何でお知りになりましたか？（複数回答あり）

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他
13	2	0	12	11

その他（Facebook、ボランティア協会、社協 など）

【Q6】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？（複数回答あり）

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
1	3	23	2	6	3	1

平成 30 年度 第3回 福知山公立大学 地域創生セミナー
「観光 -2 大河ドラマを契機とした観光誘客・シティプロモーションに向けて」
アンケート集計結果

講師：渡邊 隆 氏（有限会社ピューパ 取締役社長）

【アンケート実施概要】

参加者数	37名
回答者数	25名
回収率	68%

【Q1】講演「大河ドラマを契機とした観光誘客・シティプロモーション」について、内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
14	8	3	0	0

- ・とてもおもしろい内容で大変勉強になりました。
- ・話を聞くだけではなく、参加者と交流できる機会があったので、とてもよかった。
- ・失敗談をお聞きできたのが良かった。
- ・型にはまった内容でなかったのが良かった。
- ・大河ドラマが主ではなく、福知山の魅力が主で、そこに大河が福知山を知るきっかけとして考えないと失敗するだろうと思う。
- ・講演でお聞きする事をどのように活かしていくのか、が重要だけど一番難しい。

【Q2】福知山公立大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。
 どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・地域創生の探究活動。
- ・プレゼンの仕方、新しい仕事の形など。
- ・もっと大河ドラマ関連の講座を勉強したいです。
- ・地域づくりに関する事。
- ・観光客にとって、満足のいくプロモーションとは。
- ・アイデア、発想につながる勉強。

【Q3】その他、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・北部の小・中・高にすべての案内を。（福知山だけではダメ）
- ・市民講座をたくさん開いてくれるので、学びの機会が増えて大変良いです。公立大学の先生や学生の方々と中学校とが連携できたらなと思います。
- ・無料でこういう講座があるのは、福知山市民にとって◎です。子供向けなどあってもいいですね。

【Q4】集計資料とさせて頂きたく、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 9名、女性 3名、不明 13名
2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
0	3	6	3	7	4	2	0

3. お住まいの場所 市内 16名、市外 6名（久美浜町、丹波市、舞鶴市）、不明 3名

【Q5】この講座を何でお知りになりましたか？〈複数回答あり〉

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他
8	1	5	3	6

その他（Facebook、大学関係者）未回答 2

【Q6】講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？〈複数回答あり〉

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	1	20	1	3	1	0

平成 30 年度 第4回 福知山公立大学 地域創生セミナー 「医療 -2 データから見てくる医療の現状と将来ビジョン」 アンケート集計結果

講師：周藤 俊治 氏（奈良県立医科大学 地域医療学講座 准教授）

岡本 悦司 氏（福知山公立大学 地域経営学部 教授）

【アンケート実施概要】

参加者数	26名
回答者数	15名
回収率	58%

【Q1】講演「データ連携がもたらす地域の可視化—不足の観点からみる医療」について、内容はどうか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
3	5	5	2	0

- ・現場の医師からの意見になりますが、必要医師数と医療現場の実情とのかい離が辛かったです。
- ・データの見方、取り組みを分かりやすく説明していただきました。

【Q2】講演「データ連携がもたらす地域の可視化—不足の観点からみる医療」について、内容はどうか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
4	4	5	2	0

- ・具体的なデータからの説明がよく解りました。
- ・DWH を実際に使ってみたいと思った。

【Q3】福知山公立大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。

どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・医療についていえば、問題意識を高めるような内容であれば嬉しいです。
- ・福知山の地域のデータに基づく講座。
- ・市役所、市役所職員主催講座はとても面白い試みになるのではと思われます。
- ・福知山、北近畿に関するもの、歴史、動き、etc.
- ・当地域における地域包括ケアを考える。医療に加えて介護、福祉分野の話も聞きたい。

【Q4】 その他、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・ Dr. 不足が言われている地域に住んでいます。医療過疎も問題になっていますが、住民が声を上げてと言われますが、高齢化しすぎているのと、そこに対してエネルギーがかかるので、なかなかみんなで訴える事が出来ない現状もあります。
- ・ データを使えるように加工していただいている事に感謝します。じっくり確認してみたいと思います。
- ・ 岡本先生からお話のあった学生さんたちのレポート報告なども聞いてみたい。

【Q5】 集計資料とさせて頂きたく、性別、年齢についてお伺いします。

1. 性別 男性 6名、女性 4名、不明 5名
2. 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	未回答
1	0	2	4	5	1	0	0	2

3. お住まいの場所 市内 8名、市外 2名、不明 5名

【Q6】 この講座を何でお知りになりましたか？〈複数回答あり〉

ちらし	ホームページ	新聞	知人から	その他
6	0	5	0	2

その他 (facebook、mail)、不明 2名

【Q7】 講座を受講する際に参加しやすい時間帯はありますか？〈複数回答あり〉

平日午前	平日午後	平日夜間	土日午前	土日午後	土日夜間	その他
0	2	9	2	2	3	0

福知山公立大学こども・若者学び支援事業 美しい宇宙のことをもっと知ろう！ アンケート集計結果

【アンケート実施概要】

参加者数	56名(23組)
回答者数	22名(1組1枚配布)
回収率	100%

【Q1】 内容はどうでしたか。該当する回答番号を○で囲んでください。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
8	5	5	1	0

不明 3名

- ・ 美しい銀河の写真が見られ、貴重なお話が聞けてよかったです。
- ・ 小学生低学年では難しかったかと思います。
- ・ 写真が本当に綺麗でした。
- ・ ピエロみたいな星の生まれる写真がおもしろかった。
- ・ 星を詳しく説明されて大変勉強になった。

- ・子どもには少し難しかったようですが、私は楽しめました。
- ・満点の星が見たかった。ガスから星ができるって不思議～。
- ・おもしろかったのですが、内容が小学生には少し複雑でした。
- ・専門的な内容でしたがとても分かりやすく、楽しく聞けました。空を見上げるのが楽しくなりそうです。
- ・子どもは宇宙のことが好きでよく本を読んでいるので、興味深かったと思います。

【Q2】 引率の方の性別と年代、お子様の学年を○で囲んでください。（複数人の場合は複数ご選択ください。）
<引率者>

男性	女性	20代	30代	40代	50代以上
5	16	0	8	12	1

不明 1 名

<お子様>

幼	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
1	6	5	6	6	3	0	0	1	0

【Q3】 福知山公立大学で今後「開講してほしい講座」「勉強してみたい・興味のあること」がありますか。

どんな講座があれば参加したいですか。ご意見をご記入ください。

- ・生き物、ホタル、恐竜、昆虫、生物学、月について。
- ・学校の1研究になるようなことをしてほしいです。
- ・子どもが数に興味があるので、数にまつわる面白い話を聞きたいです。
- ・宇宙船について。

【Q4】 その他、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・楽しかったです。もう少し時間があればよかったです。
- ・資料にフリガナなどがあれば低学年でもわかりやすかったかも。
- ・星の動きはすごいと思った。
- ・小1～中3では年齢層が広いので、講義を分けたほうがよいのでは？

アンケート集計結果：

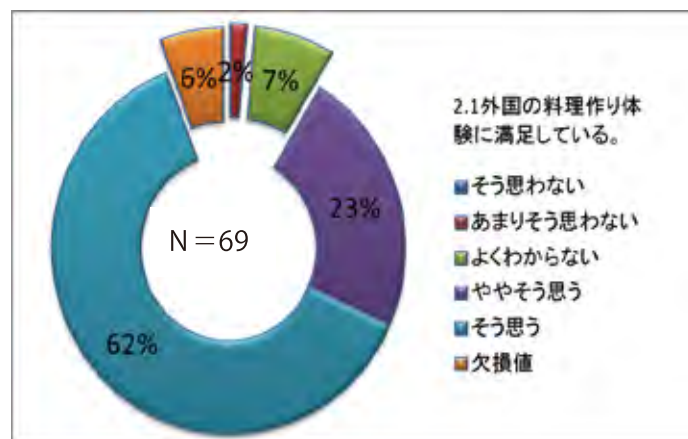
(1) 児童参加者の集計結果について

各児童館参加児童の回答割合		
	人	%
南有路児童館	15	23.1
菟原児童館	6	9.2
丘児童センター	26	40.0
堀児童館	11	16.9
上夜久野児童館@ 額田児童館	7	10.8
合計	65	100.0

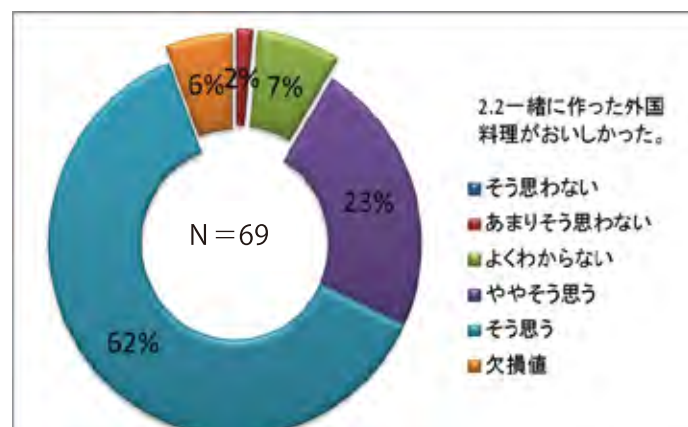
参加児童の年齢分布		
	人数	%
6 歳	1	1.5
7 歳	11	15.9
8 歳	5	7.3
9 歳	12	17.4
10 歳	13	18.8
11 歳	13	18.8
12 歳	5	7.3
14 歳	3	4.3
15 歳	1	1.5
合計	64	92.8
欠損値	5	7.2
合計	69	100.0

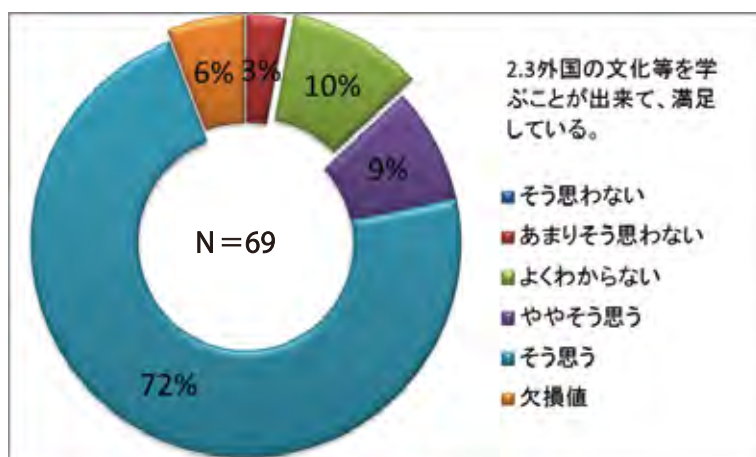
本年度の児童館国際交流イベントに参加した児童数は69名で、65名の児童から回答を得られました。各児童館において、調理室の広さ等の関係で、参加人数が限られています。また、児童館国際交流事業が2016年度から実施されたため、過去の交流会に参加した児童が本年度の交流会にも参加してきました。参加者の年齢から、7歳以上の子供が多く、外国の文化、アンケート内容に対して、ある程度理解出来ると考えられます。本年度の交流会に4名の中学生が参加しました。今後、できる限り多くの児童が交流会に参加できるように、実施内容、広報等の児童の集客方法を工夫する必要があると考えられます。（二つの上の表から）

右図から約85%の児童参加者は本年度の外国の料理作り体験に満足し、9%の児童は満足していないことが分かります。出来る限り全ての参加者に「野菜を切ったり、肉を切ったり、など」をやって貰うようにしましたが、安全や時間の関係で体験させない部分もありました。その関係で料理作りの手順等に不明な点があり、「満足していなかった」と推測できます。

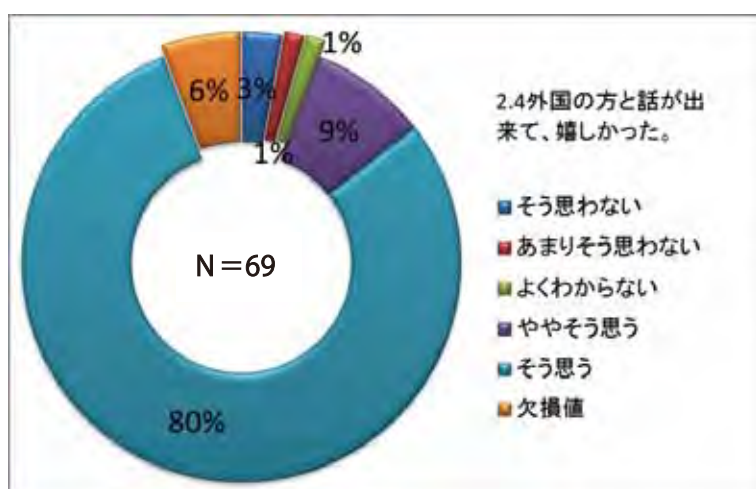


右図から約85%の児童参加者は本年度の一緒に作った外国料理に満足し、9%の児童は満足していないことが分かります。初めて外国料理を食べるため、普段の日本料理と異なり「油っぽい、塩辛い、等」で慣れない場合があります。普段の日本料理と比較しながら、その相違点を気づければ十分な意義があると考えられます。

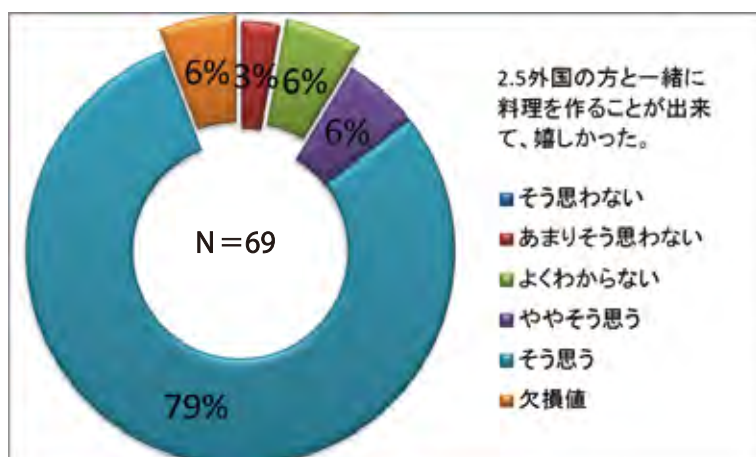




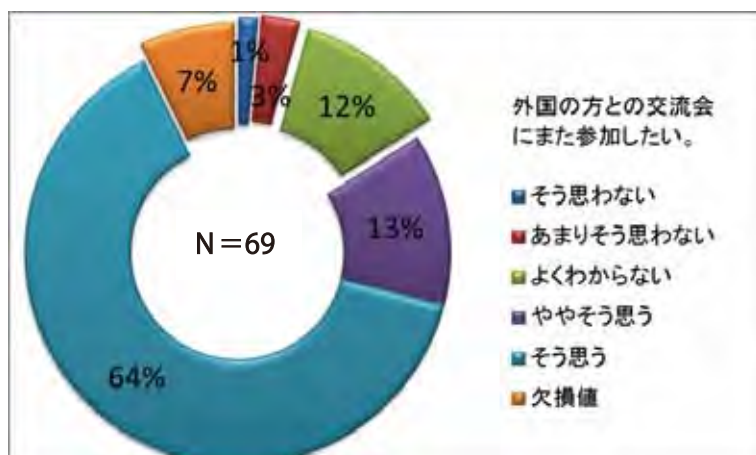
左図から8割以上の児童参加者が、外国文化の学習に満足しています。普段の生活の中で接触機会のない外国文化を学び、新鮮で面白みを感じながら、異国文化への理解を少しずつ深めたと考えられます。ただ、13%の児童が「よくわからない、満足していない」と回答し、年齢が低いので、外国知識、文化という言葉さえ分かっていないと考えられます。



左図から約9割の児童が「外国の方と話が出来て、嬉しかった」と思っていることより、児童の異文化教育において、外国人と直接に話せることで、外国の文化を理解させるための一番、効果のある手段だと考えられます。



左図から85%の児童が「外国の方と一緒に料理を作ることが出来て、嬉しかった」と思っていることから、食文化交流会に満足していると考えられます。しかし、残り約1割の児童の回答から、今後、料理作り以外の手段を通じて、外国人と交流できることを計画する必要があると考えられます。



左図から、本年度の食文化交流会を通じて、今後の食文化接触意欲が分かります。77%の児童が今後また外国人との交流で、異文化と触れ合いたいと回答していることから、児童館と連携して開催した国際文化交流会が全体的に非常に意義のある事業であることが分かります。

子どもの自由回答抜粋：

1. 外国の人といっぱい遊んだり、ご飯を食べたから楽しかった。フィリピンの人とあえて楽しかった。
2. バンブーダンスは難しかったです。だけど最後にはできてうれしかったです。
3. バンブーダンスと来てくれたおにいちゃんがすき、もっとほかの国の勉強もしたい。アイリンさんの国の言葉も知りたいし、大学生の皆さんも優しかったし、来てくれてありがとうございました。
4. 知らないおどりをして足が痛くなったけど大丈夫。いろんなことや一緒に料理や遊んでもらってありがとうございました。また交流会で一緒に何かをしたいし他のダンスを習いたいです。
5. バンブーダンスをもっと知りたいし、こんなダンスできるんだと思いました。アイリンさんと一緒に料理やバンブーダンスをして楽しかった。
6. バンブーダンスが難しかったけど、よく知れてうれしかったです。ありがとう。楽しかったです。また出会ったら英語教えてください。
7. また外国人と一緒に料理を作りたいと思いました。また国際食文化交流会に参加したいです。今日は料理を作ったり、バンブーダンスとかを教えてくださいありがとうございました。私はフィリピンの言葉とか勉強になったので良かったです。
8. 外国では皆、こんな風に過ごしていると分かりました。色々教えてくださいありがとうございました。
9. またこういう時間で外国の文化とか知っていきたいです。色々遊んでくれてありがとうございました。バンブーダンスとか文化とか教えてくださいうれしかったです。バンブーダンスで足をはさんでばっかりだったけど楽しかったです。
10. 私は外国の料理は食べた事がなかったし、バンブーダンスも知れたので良かったです。またバンブーダンスをやりたいです。そして外国語も知れたので、外国人がいたらまた一緒に喋ったり、困っていたら助けたり、外国の人を笑顔にしてあげたいと思いました。次、来た時はもっと勉強したいと思いました。今日はいろいろできました。今日はいろいろと教えてくれたり、学んだりして勉強になりました。ありがとうございました。バンブーダンスも覚えたのでまた一緒にしたいです。料理やダンス、中国のことも教えてくれたのでうれしかったです。「幸せなら手を叩こう」の中国語を知れたのでうれしかったです。日本とフィリピンが仲良しなのを知ったので、アイリンさんともっと話したいです。
11. 料理を作って楽しかった。竹で足をはさんだりしたけど、回ることができたり、二人でやったりして楽しかったです。料理は初めて作りました。油がとんだりしたけど作れました。もっと二つを上手に作ったり、跳んだりしていきたいです。このような機会があったら、またやりたいです。とても料理を作るのが大変で難しかったけどまたやりたいです。
12. 大学生の人や今日来てくれた外国人との交流ができてよかったし、仲良くなれたと思います。楽しかったです。またこんな機会があったら、いいなと思いました。外国のことをもっと知りたい。今日はたくさんお世話になりました。フィリピンのことやごはんについてたくさん知れました。私が一番印象的だったのはフィリピンの踊りです。最初は難しかったけどなれると楽しかったです。皆さんと交流ができてとてもうれしかったです。また交流してみたいです。お兄ちゃん大好き。今日はありがとうございました。
13. フィリピンのことがよく分かったので良かったです。これからは、ほかのアメリカやフランスなどの外国のことについてももっと詳しく知っていききたいです。そして言葉を知り、困っている外国人に分かりやすく優しく言葉をかけていきたいです。今日はたくさん教えてくださいありがとうございました。フィリピンについていろいろなことを知れてうれしかったです。私は今、学校で明治時代の勉強をしています。これからは外国のことについても学んでいきたいです。そして、困っている外国人を見たら声をかけてみたいです。色々なことを教えてくださいほんとうにありがとうございました。
14. こういう外国の方と話したりする機会はあまりないので、今日はとてもいい体験ができました。フィリピンの本格的な料理はとてもおいしくて、これを機にフィリピンについてもっと学びたいと思いました。

また、バンブーダンスでは楽しく体験しながらフィリピンの文化に触れることができてよかったです。またこういう交流会があるときにはぜひ参加したいです。アイリン先生、おいしいフィリピン料理とバンブーダンスを披露してくださり、ありがとうございました。とても気楽に声をかけてくれてうれしかったです。張先生、一緒にご飯を食べるとき、学校のことや中国語についていろいろ話ができてよかったです。ありがとうございます。岩根さん、子供が大好きないい人なんだろうなとみんなと遊んでいる姿を見て思いました。ありがとうございました。

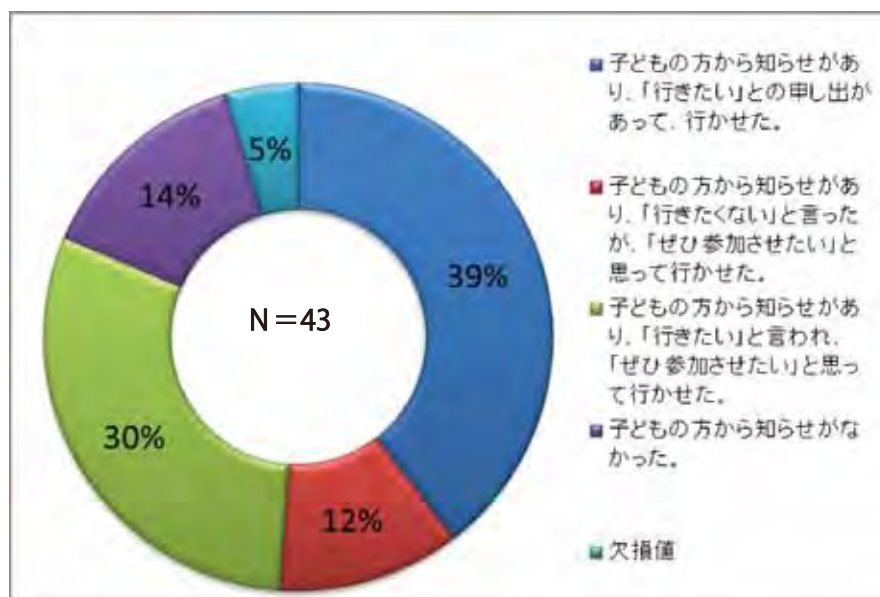
15. 最近外国人を見ることが増えてきていて、外国語を話せないと不便なことが多くなっていると思う。これから外国語をしっかりと学んでいきたいと思う。今日みたいに外国の人と交流をする場があるのはすごくいいことだと思うし、また機会があれば参加したい。料理を作ったり、ダンスをしたり、フィリピンや中国のことを知ることができてとても勉強になりました。いろんな話もできてとても楽しかったです。ありがとうございました。
16. タイ人と話すことや、タイの文化を知ることができてうれしかった。外国の言葉は興味がなかったけれど少しは興味を持ちました。
17. 今日はタイについていろいろな言葉や食べ物など知ることができました。ダンスを少し教えてもらって楽しかったです。タイスキもおいしかったです。外国の文化をたくさん知ることができました。みんなと交流できたので良かったです。
18. タイの有名な場所や文化、言葉などを覚えて楽しかったです。タイの料理もおいしかったし、このような交流会をこれからも続けてほしいです。次の国はオーストラリアがいいです。
19. タイの文化をいろいろと知れてよかったです。一番すごいと思ったのはダンスを踊ってくれたことです。タイスキがおいしかったです。
20. 僕はタイの料理は辛い食べ物が多いから辛い料理は辛いのかなと思っていただけ、とてもおいしかったです。僕も作れるなら作ってみたいです。次の国はインドがいいです。
21. タイの人と会って話ができてうれしかったです。タイの文化がよく知れてよかったです。タイの料理ができてよかったです。タイに行って文化をもっと知ってみたいし、タイ人にあってみたいです。今日のことを家族に話をしたいです。
22. タイの言葉やダンス、文化、文字などいろいろなことがわかりました。色々な言葉をもっと勉強したいです。一緒に料理を作ったときもおいしかったし、楽しかったです。また作ってみたいです。ほかの国の文化も知りたいです。
23. タイと日本の時間が違うことやタイと日本のお金も違うということで、知ることができてとても楽しかったです。タイの料理を食べてみたらとてもおいしかったので、また家で作って食べてみたいです。とても楽しかったのでまた交流会に行ってみみたいです。
24. 私は中国と日本では言葉の意味が違うことに驚きました。漢字は中国から来たとは知っていたけど、言葉の意味まで深く考えたことがなかったからです。ゆでだんごをつくって、初めて食べておいしかったです。又、家でも作りたいなと思った。ごま団子もおいしかったです。ありがとうございました。
25. 中国のことや中国の料理をもっと知りたいです。中国の友達が困っていたりしたら助けてあげたいです。違う国の国際交流会に行きたいし、今日は行って楽しかったので来年などの国際交流会に行き続けたいです。中国の料理を作れたし、おいしかったので、また作りたいです。中国のことがたくさん分かったので、もっと中国のことを調べようと思いました。ほかの中国の料理を知りたいです。出来たら中国へ行きたいです。
26. いろいろな言葉や料理を教えてくれたのでわかりました。私は国際交流に参加してごま団子の作り方がよくわかりました。最初は団子の作り方がわからなかったけれど、いろいろ教えてくれたのでとても楽しかったです。家でも作ってみたいです。
27. またお菓子を作りたいです。僕は先生に中国語を教えていただいて、団子を作りました。特に美味し

- かったのはごま団子です。油で揚げてすごくおいしかったので、家でも作りたいです。
28. またやりたいです。団子を作って食べたいです。アメリカやフランスとも交流したいです。楽しかったです。ごま団子がおいしかったです。また交流したいです。
29. ごま団子とゆで団子の作り方がわかりました。作っているときにいい匂いがしました。おいしそうで、すぐ食べてなくなりました。食べたらずごくおいしかったです。
30. 中国の料理や言葉が知れてよかったです。また、これからも、いろんな国の料理や言葉を知りたいです。中国がどんな国なのか、中国語がわかったので良かったです。中国の料理は辛くて赤い食べ物が多いと思ったけど、今日ごま団子などの料理があることもわかりました。今日作った料理を家でも作ってみたいと思いました。
31. 今日の国際交流に参加して楽しかったのでまた参加したいと思いました。外国の言葉についていろいろと分かったので良かったです。今日の国際交流に参加して団子を作るときに、初めは大学生のお兄さんに緊張しましたが、だんだん慣れてきて楽しく作れたので良かったです。また団子を詰めるときに難しくて外に出たりしたけど、慣れてきて上手にできたので良かったです。また参加したいと思いました。
32. とても楽しかったです。これからのしたいです。中国の料理は辛いと思ったけどとてもおいしくて、辛くなくて本当に中国の食べ物かと思いました。今日作ったごま団子もカリカリしておいしかったです。中国語もとても意味が違って難しかったです。
33. お料理を作るのが難しかったです。お料理すごくおいしかったです。ごま団子とゆで団子の作り方がよくわかりました。作っているときいい匂いがしました。すごくおなか为空いたので、食べたらずごくおいしかったです。すぐに食べなくなりました。
34. 僕は今日の見学について日本語と中国語で意味が全く違うということを知り、とてもびっくりしました。また、大学の中は本が何万冊とたくさんあってとてもすごいと思います。なので、すごい経験だと思います。僕は日本語と中国語の意味のちがいが全然違ったのでとてもびっくりしました。切り絵で間違えたけど楽しかったです。
35. 切り絵をして失敗したけど、いい作品ができました。また、作ってみたいです。僕は中国語のことや大学のことをいっぱい知れました。5階からの景色はとてもすごかったです。
36. 外国人が使う、切り絵をして、とても楽しかった。もっと交流ができるようにしたいしこの体験をまたしてほしい。大学に行って楽しかった。中国のいろんなことや切り絵を楽しめてよかったです。
37. 切り絵をして失敗すると思ったが、思ったよりうまくできたし社会で習った中国の名前が出てきてチャンスと思いました。これからはほかの国の名物や文化などを知っていきたいです。今日のことは家で話したいです。福知山公立大学を見学して、修学旅行で行った立命館大学より小さかったけど知らないことを知れて思い出になりました。
38. 最近歴史のことにについて学習したときに、清という言葉や中国について少ししっていました。でも、今日さらに中国について詳しく知ることができてよかったです。家に帰ったら、家族に今日のことを話してあげたいです。切り絵は難しかったけれど楽しむことができてよかったです。次、私たちの学校にオーストラリアの人が来られます。たくさん話をしたいです。中国について興味を持ちました。実際に切り絵を体験してみてもとても難しかったけれど、楽しめました。ありがとうございました。
39. 切り絵などが難しかったけど、中国の文化についてよく知ることができました。また、歴史の勉強でもやった清についても出てきて、これからの授業で役立ちそうです。とても楽しくできました。ありがとうございました。私は中国の文化を知ることができてとても良い経験になりました。大学もとても大きくて驚きました。

保護者回答者数（児童館別）

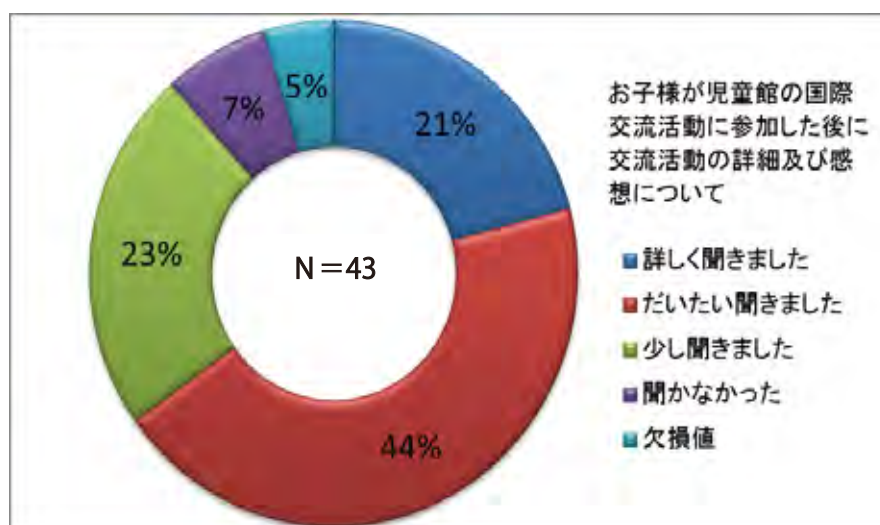
	人	%
南有路児童館	15	34.9
菟原児童館	5	11.6
丘児童センター	7	16.3
堀児童館	12	27.9
夜久野両児童館	4	9.3
合計	43	100.0

児童向けの国際文化交流会の開催に対して、子ども達の参加感想などを把握すると共に、子供の人生観、価値観等の形成に重要な役割を果たす保護者の思いも把握する必要があると考え、本年度保護者宛のアンケート調査も実施しました。ご協力を頂き、多くの保護者から回答を得られました。



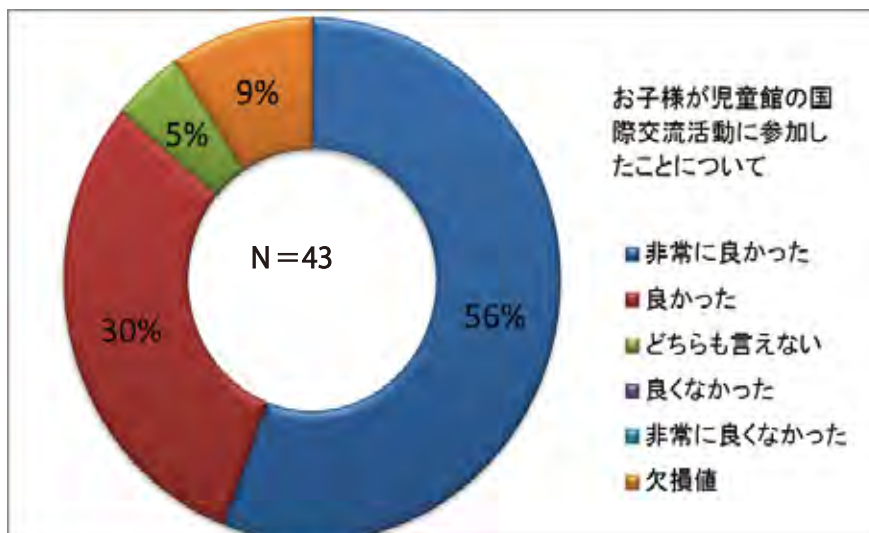
国際文化交流会への参加は児童の自主的参加かどうかについて、事前の保護者とのやりとりについて、左図のような結果になっています。約4割の保護者は子どもの自主性に賛同し参加させました。12%の保護者は子どもの消極参加に対して、参加させたい意識が強いことが分かります。3割の保護者は子どもの積極的自主参加に対して、参加させたい意識が強いと見られます。国際文化交流会に参加

加させたい意識が強いことから、少なくとも、42%の保護者が子どもの異文化教育を重視していることが考えられます。また、14%の保護者は事前に子どもの方から知らせがありませんでした。このことから子どもと保護者の間のコミュニケーションが不足している部分があるという懸念があります。

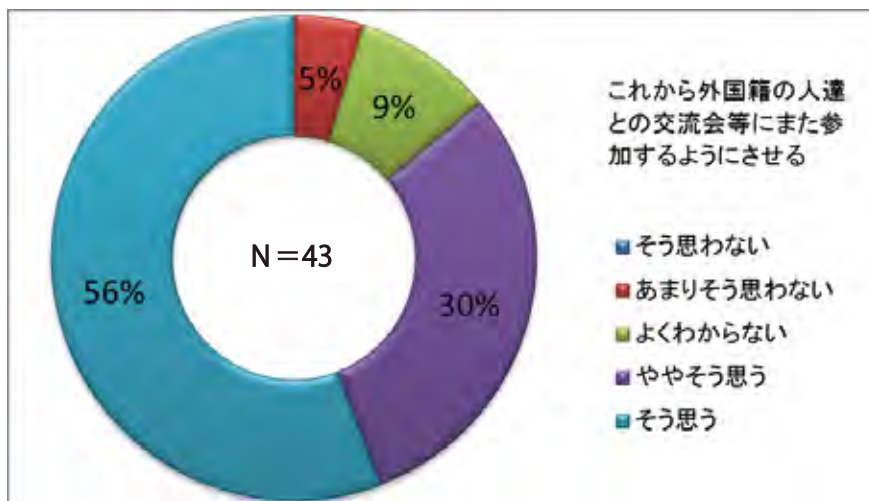


国際文化交流参加後に、交流活動の詳細と子どもの感想について、左図から少なくとも65%の保護者が国際交流会の実施内容の異文化教育効果に関心を持っていることが分かります。この調査結果から、今後、児童向けの国際文化交流会の実施内容を児童視点だけでなく、保護者の視点も視野に入れるべきだと考えられます。また

7%の保護者は活動詳細と子どもの感想を聞かないという結果になりました。保護者が子どもの異文化教育に関心を持っていないことが現実存在している恐れがあります。今後の国際交流会の開催に当たり、保護者に対して事前通知と開催後の報告を行う必要があると考えられます。



左図から、86%の保護者は本学と児童館側との連携で実施した国際交流活動に対して、高く評価しています。異文化教育の視点において、本事業の趣旨と保護者の認知が一致していると考えられます。実施計画側として、今後も含めて、励ましくなっていると考えられます。



左図から、86%の保護者は子どもの今後の外国文化交流活動への参加に対して、積極的な意向を持っていると分かります。本事業は保護者が今後の子どもの異文化教育に関心を持つようになり、また、継続して、子どもの異文化教育に力を入れるようになるきっかけになったと考えられます。

けになったと考えられます。

1. 都会へ出るまで時間のかかる田舎なので、子供たちはあまり多文化になじみなく育っています。地域と世界をつなぐ子どもたちに広い世界を感じさせてくれる今回のような機会を作っていただきたいと思います。ありがとうございました。
2. 留学生などの在留外国人との交流に力を入れてほしいです。
3. 学部自体何があるかわからない学校なのでもっと特色を教えてほしい。
4. 子供達にはいろんな国の人たちとたくさん交流をもって、いろんなことを学んでほしいですが、機会が少ないのでもっと増やしてほしいです。
5. 毎年参加しています。田舎での小さな世界なのでいろんな人と(外国の方に限らず)出会う機会がとてもうれしいです。
6. 外国に対する考えや交流は良い経験だと思います。子供に外国の良さをもっと伝えたいのでお願いしたいと思います。今、韓国のドラマや音楽を聞いているので、韓国の文化や言葉を知りたいと思います。
7. 子供にとってタイのことを知るきっかけとなり、とてもいい経験をさせていただきました。また、いろんな国の文化に触れさせたいです。機会がありましたらほかの国の文化の国際交流会をしていただきたいと思います。
8. 福知山の大学として福知山を活気づけていただきたい。

9. 公立大学になり、学生を見る機会が多くなりボランティアとかされているのを見てすごいなと感じております。
10. 今回子供がとても楽しかったようなので、またいろいろな会をしてもらいたいです。
11. 機会があれば参加させて他国の人と交流させたい。
12. 施設の開放を進めてほしい。→すべての施設→人が集まるため。
13. 英会話の学習はこれからの社会生活には大切なことだと思います。身近な環境で生きた英語に接することができればいいと思います。
14. 英語を習わせているがアウトプットする場がないので、自然な形で外国の方と話せる場があればうれしいです。
15. 工学部を作ってほしい。
16. 大学に関しては工学部などもう少し学部数があればいいなと思う。

福知山公立大学 市民学習・キャリア支援センター
平成30(2018)年度 市民学習・キャリア支援センター事業報告書
平成31年3月 発行

発行所 福知山公立大学 市民学習・キャリア支援センター
〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
福知山公立大学2号館1階「Kita-re」
TEL: 0773-24-7151 FAX: 0773-24-7152
E-mail: kita-re@fukuchiyama.ac.jp
印刷所 株式会社タカギ印刷

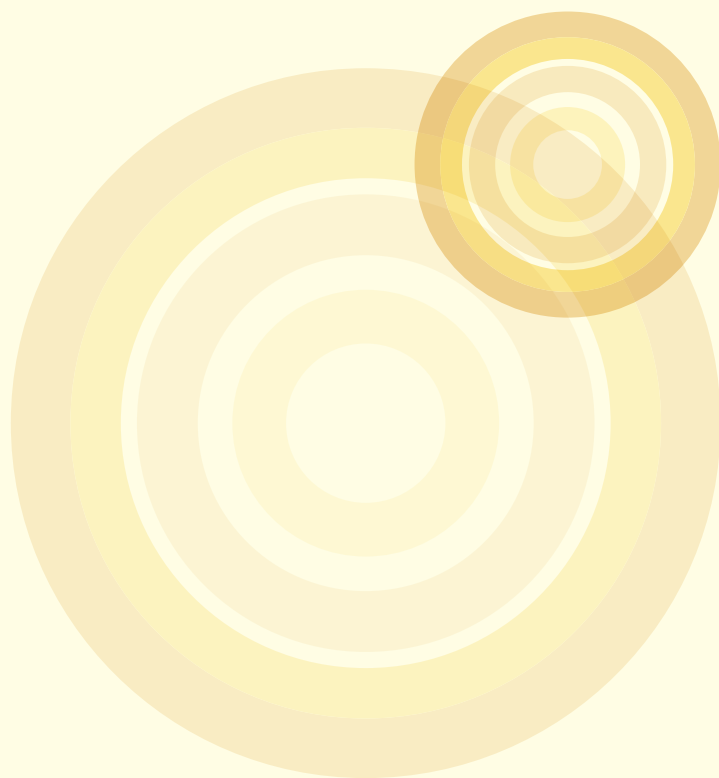
何 だ い

度 れ つ

で で で

も も も





 福知山公立大学

Kita-re
市民学習・キャリア支援センター

〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370

TEL 0773-24-7151 FAX 0773-24-7152 Mail kita-re@fukuchiyama.ac.jp

<http://www.fukuchiyama.ac.jp>